

定期点検表	A-2
定期点検整備要領	A-10
作業前の準備品	A-10
かじ取り装置	A-12
制動装置	A-18
走行装置	A-27
緩衝装置	A-29
動力伝達装置	A-31
電気装置	A-33
原動機	A-35
ばい煙、悪臭のあるガス、 有害なガス等の発散防止装置	A-41
附属装置	A-45

## 定期点検表

- 1) 運行前点検項目の判定基準は自動車使用者に周知徹底を図る。
- 2) 「●」印は法規で義務付けられた点検時期を示し、「○」印はその外メーカーで推奨することを示す。
- 3) 「×」印は該当しないことを示す。
- 4) 「☆」印は保安部品の定期交換を示す。その交換時期は一般走行する不特定多数の車を対象に定めてある。  
従って著しく走行条件の異なるものは、これに準拠して交換する。
- 5) 「※」印は初期点検のみを示す。(但し、※1は初期点検の1カ月又は1,000軒時、※5は6カ月又は5,000軒時点検を示す。)
- 6) 「[ ]」内は第1回目の交換時期を示す。

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等		単 位 (千 km)			
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎				12 か 月 毎
か じ 取 り 装 置	ハ ン ド ル	遊び、緩み及びがた			●	●		●	●	遊びは直進状態にてホイール 外周で P：(油圧作動時) 0～30mm	P：パワステ を示す	
		操作具合			●	●		●	●			
	ギ ヤ ・ ボ ッ ク ス	油漏れ				●		●	●	※5		
		取付けの緩み				●		●	●			
		軸受部のがた							●			
		ギヤのバックラッシュ							●		ラック・ピニ オン式	
	ロ ッ ド 及 び ア ー ム 類	緩み、がた及び損傷			●	●		●	●			
		ボール・ジョイントのダスト・ ブーツの亀裂及び損傷			●	●		●	●			
		連結部の摩耗及び取付状態							●			
		ナックル・アームの亀裂及び ナックルとの取付状態							●			
	ナ ッ ク ル	連結部のがた				●		●	●			
		ナックルとフロント・アクスル とのすき間							●		×	
	か じ 取 り 車 輪	ホイール・アライメント				●			●	トーイン 1～7 mm キャンバ 0°05'±45' キャスト 9°00'±45'		
		左右の回転角度				●			●	内側 37°±2° 外側 33°±2°		
	パ ワ ー ・ ス テ ア	ベルトの緩み及び損傷		●	●	●	●	●	●	※1 ※5	ベルトの中央部を10kgの力で 押したときのたわみ 14～16mm	
		油漏れ及び油量			●	●	●	●	●	※5	◇レベル・ゲージ 上限～下限間にあること	
		取付けの緩み				●		●	●			インテグラル式

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考																
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					単 位 ( 千 km															
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎																		
制          動          装          置	ブ レ ー キ ・ ペ ダ ル	遊び及び踏み込んだときの床板とのすき間	●	●	●	●	●	●	※1 ※5	◇遊び3～8（12～15）□ 踏力60kgで踏み込んだときの床板とのすき間 66mm以上  〔ハイドロリック・プースタ仕様車の点検は、遊びはアキュム・レータの圧力が零の状態。床板とのすき間はイグニッション・スイッチONの状態を示す。〕	( )はハイドロリック・プースタ仕様車を示す。																
		踏みしろ及びきき具合	●																								
		ブレーキのきき具合		●	●	●	●	●	●	※1 ※5		◇ <table><tr><td colspan="2"></td><td>制 動 力</td></tr><tr><td rowspan="2">各 輪</td><td>左右和</td><td>軸重の60%以上</td></tr><tr><td>左右差</td><td>軸重の8%以下</td></tr><tr><td colspan="2">総和</td><td>車両重量の60%以上</td></tr></table>			制 動 力	各 輪	左右和	軸重の60%以上	左右差	軸重の8%以下	総和		車両重量の60%以上				
			制 動 力																								
	各 輪	左右和	軸重の60%以上																								
		左右差	軸重の8%以下																								
	総和		車両重量の60%以上																								
	駐 車 ブ レ ー キ ・	引きしろ	●	●	●	●	●	●	●	※1 ※5	操作力20kgのとき 引きしろ 11～15ノッチ 全ストローク 20ノッチ																
		ブレーキのきき具合			●	●	●	●	●		制動力 車両重量の20%以上 操作力 50kg以下																
		ラチェット部の摩耗及び損傷							●																		
ケー ブ ル ・ ロ ッ ド 及 び 類	緩み、がた及び損傷				●		●	●																			
ホ ー ス 及 び パ イ プ	漏れ、損傷及び取付状態		●	●	●	●	●	●	※1 ※5																		
リ ン ク ・ リ ザ ー バ ・	液量	●	●	●	●	●	●	●	※1 ※5	◇液面レベル MAX～MIN間にあること 〔ハイドロリック・プースタ仕様車の点検は、アキュム・レータの蓄圧完了時。〕																	
リ ン ク ・ シ リ ン ダ ・ ホ イ ール ・ シ 	ホイール・シリンダ及びディスク・キャリパの液漏れ			●	●																						
	機能、摩耗及び損傷				●			●																			

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考														
			運 行 前	目 家 用			事 業 用 等					単 位 (千 km)													
				6 か月毎	12 か月毎	24 か月毎	1 か月毎	3 か月毎	12 か月毎																
制 動 装 置	倍力装置	機能				●																			
		油密及び気密							●																
	ブレーキ・シュー・ドラム及びバック・プレート	ドラムとライニングとのすき間			●	●		●	●	●	◇アジャスタでドラムをロックさせ、ドラムが軽く回転するまでもどす。	パーキング・ブレーキを示す													
		シューの摺動部分及びライニングの摩耗			●	●			●	●	◇標準厚さ 3.5mm 使用限度 1.0mm	同上													
		ドラムの摩耗及び損傷				●				●	標準径 190mm 使用限度 191mm	同上													
	バック・プレート	バック・プレートの状態								●															
	ブレーキ・ディスク及びパッド	ディスクとパッドとのすき間			●	●			●	●															
		パッドの摩耗			●	●			●	●	標準厚さ 前輪10.0mm 後輪10.0mm 使用限度 前輪 1.0mm 後輪 1.0mm														
		ディスクの摩耗及び損傷					●				●	標準厚さ 前輪24.0mm 後輪18.0mm 使用限度 前輪22.0mm 後輪16.0mm													
	走 行 装 置	フロント・アクスル	損傷及び変形								●														
リア・ハウジング・アクスル		損傷及び変形								●															
ホイール		タイヤの空気圧		●	●	●	●	●	●	●	◇ (単位:kg/cm <sup>2</sup> ) <table border="1"><thead><tr><th>タイヤ仕様</th><th>前輪</th><th>後輪</th></tr></thead><tbody><tr><td>215/60R 15 90H</td><td colspan="2">1.9</td></tr><tr><td>225/50R 16 92V</td><td colspan="2">2.0</td></tr><tr><td>T135/70 D 15</td><td colspan="2">4.2</td></tr></tbody></table> 空気圧は、一般走行、高速走行共同じ	タイヤ仕様	前輪	後輪	215/60R 15 90H	1.9		225/50R 16 92V	2.0		T135/70 D 15	4.2			
		タイヤ仕様	前輪	後輪																					
		215/60R 15 90H	1.9																						
		225/50R 16 92V	2.0																						
		T135/70 D 15	4.2																						
タイヤの亀裂及び損傷	●	●	●	●	●	●	●	●																	
タイヤの溝の深さ及び異状な摩耗	●	●	●	●	●	●	●	●		残溝 1.6mmまで															
タイヤの金属片、石その他の異物	●	●	●	●	●	●	●	●																	
	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み				●	●	●	●	●	※1 ※5 ◇ホイール・ナットの締付けトルク 9～12kgm															
	リム、及びホイール・ディスクの損傷				●																				

定期点検表

A

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					単 位 (千 km)
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎			
走行装置	ホイール	リム、サイド・リング及びホイール・ディスクの損傷				●	●	●				
		フロント・ホイール・ベアリングのがた			●		●	●		◇ベアリング軸方向の遊び 0.1mm以下		
		リヤ・ホイール・ベアリングのがた			●			●		◇ベアリング軸方向の遊び 0.1mm以下		
緩衝装置	シャシばね	損傷			●		●	●				
		左右のたわみの不同							●			
	取付部及び連結部	取付部の緩み及び損傷			●							
		取付部（ブラケット部を除く）の緩み及び損傷					●	●				
		連結部のがた			●			●				
		リーフのずれ						●			×	
		ブラケットの取付けの緩み及び損傷						●				
	サスペンション	連結部のがた及びアームの損傷			●			●				
		アブソルブ・ショック・バ	油漏れ及び損傷			●		●	●			
	取付部のがた				●		●	●				
動力伝達装置	クラッチ	ペダルの遊び及び切れたときの床板とのすき間	●	●	●	●	●	●			×	
		作用		●	●	●	●	●			×	
		液量		●	●		●	●			×	
	ミッション	油漏れ及び油量		●	●	●	●	●		◇A/T車（プレンジ） レベル・ゲージの上限～下 限間にあること		
		操作機構のがた			●			●				
	ドライブ・シャフト及びプロペラ・シャフト	連結部の緩み		●	●		●	●				
		自在継手部のダスト・ブーツの亀裂及び損傷		●	●		●	●				
		スプライン部のがた			●			●				
		自在継手部のがた			●			●				
		プロペラ・シャフトの振れ						●		前側 0.4mm以下 後側 0.6mm以下		
		センタ・ベアリングのがた			●			●				
		アクスル・シャフトのねじれ及び亀裂						●			×	
	デフアレ	油漏れ及び油量		●	●	●	●	●		◇フィラ・プラグ穴下面程度 までであること		

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考										
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					単 位 (千 km)									
				6 か月毎	12 か月毎	24 か月毎	1 か月毎	3 か月毎	12 か月毎												
電 気 装 置	点 火 装 置	点火プラグの状態		●	●	●	●	●			スーパ・エア・ギャップ・プラグ (調整不要)										
		点火時期			●	●	●	●	●		◇BTDC ° / rpm <table><tr><td></td><td>T側</td><td>L側</td></tr><tr><td>13B-REW</td><td>-20 / 750</td><td>- 5 / 750</td></tr><tr><td>20B-REW</td><td>-20 / 720</td><td>- 5 / 720</td></tr></table>		T側	L側	13B-REW	-20 / 750	- 5 / 750	20B-REW	-20 / 720	- 5 / 720	Pレンジ
			T側	L側																	
		13B-REW	-20 / 750	- 5 / 750																	
		20B-REW	-20 / 720	- 5 / 720																	
	断続器の状態		●	●	●	●	●			無接点式											
	ディストリビュータのキャップの状態		●	●		●	●			×											
	進角装置（遅角機構を含む）の機能		●	●		●	●			×											
	バ ッ テ リ	液量		●	●	●	●	●	●	※5	◇液面レベル 上限～下限間にあること										
		液の比重			●	●		●	●		液温20℃のとき 比重 1.27～1.29										
ターミナル部の接続状態			●	●		●	●														
電 配 線	接続部の緩み及び損傷				●	●	●	●													
原 動 機	本 体	かかり具合及び異音		●	●	●	●	●													
		低速及び加速の状態			●	●	●	●	●	※1 ※5	◇アイドリング回転数 <table><tr><td>13B-REW</td><td>730～780rpm</td></tr><tr><td>20B-REW</td><td>700～750rpm</td></tr></table>	13B-REW	730～780rpm	20B-REW	700～750rpm	Pレンジ					
		13B-REW	730～780rpm																		
		20B-REW	700～750rpm																		
		排気の状態		●	●	●	●	●	●	※1 ※5											
		エア・クリーナ・エレメントの状態		●	●	●	●	●													
		シリンダ・ヘッド及びマニホールド各部の締付状態							●		締付けトルク マニホールド 吸気 1.9～2.6kgm 排気 4.4～5.3kgm (6.6～8.0)	( )は20B-REWを示す									
		圧縮圧力							●		◇ (単位kg / cm <sup>2</sup> - r p m) <table><tr><td></td><td>圧縮圧力限度 kg / cm<sup>2</sup> - r p m</td><td>各ロータの 燃焼室間差</td></tr><tr><td>13B-REW</td><td>2ロータ 7.0-250</td><td>1.5kg / cm<sup>2</sup>以内</td></tr><tr><td>20B-REW</td><td>3ロータ 7.0-250</td><td>1.5 "</td></tr></table>		圧縮圧力限度 kg / cm <sup>2</sup> - r p m	各ロータの 燃焼室間差	13B-REW	2ロータ 7.0-250	1.5kg / cm <sup>2</sup> 以内	20B-REW	3ロータ 7.0-250	1.5 "	
	圧縮圧力限度 kg / cm <sup>2</sup> - r p m	各ロータの 燃焼室間差																			
13B-REW	2ロータ 7.0-250	1.5kg / cm <sup>2</sup> 以内																			
20B-REW	3ロータ 7.0-250	1.5 "																			
弁すき間				●			●			×											

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					単 位 (千 km)
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎			
原 動 機	潤滑装置	油の汚れ及び量	●	●	●	●	●	●	※1 ※5	◇レベル・ゲージ F～L間にあること		
		油漏れ			●	●	●	●	●			
		オイル量	●									
	燃料装置	燃料漏れ			●	●	●	●	●	※1		キャブレタ をスロットル ボデーにおき かえる
		キャブレタのリンク機構の状態				●		●	●			
		スロットル・バルブ及びチョーク・バルブの状態				●		●	●			
		噴射ノズルの噴射圧力及び噴霧状態				●		●	●			×
		噴射時期及び噴射量				●			●			×
		供給ポンプの機能							●			×
		燃料の量	●									
	冷却装置	水量	●	●	●	●	●	●	●	※5	◇サブ・タンク FULL～LOW間にある こと。	
		ファン・ベルトの緩み及び損傷	●	●	●	●	●	●	●	※1 ※5	ベルトの中央部を10kgの力で 押したときのたわみ 7～9mm	オルタネータ ベルトを示す
		水漏れ	●		●	●		●	●			
		ラジエータ・キャップの機能				●		●	●		開弁圧 1.15～1.45kg/ゴ	
	ばい煙、 悪臭のあるガス、 有害なガス等の発散防止装置	ガス還元装置	メタリング・バルブの状態				●			●		
配管の損傷						●			●			
燃料排出抑止装置		配管等の損傷				●			●			
		チャコール・キャニスタの詰まり及び損傷				●			●			
		チェック・バルブの機能				●			●			
一酸化炭素等発散防止装置		触媒反応方式等排出ガス減少装置の取付けの緩み及び損傷			●	●		●	●			
		二次空気供給装置の機能				●	●		●	※1	参照：p. A-42	※1点検はエア ・ポンプ・ベル トのみ
		排気ガス再循環装置の機能			●	●		●	●			×
		減速時排気ガス減少装置の機能			●	●		●	●		参照：p. A-44	
		配管の損傷及び取付状態			●	●		●	●			
熱害防止装置	遮熱板の取付けの緩み及び損傷			●	●		●	●	※5			

点 検 整 備 項 目		点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
		運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					単 位 (千 km)
			6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎			
方向指示器 灯火装置及び	作用		●	●	●	●	●	●	※1 ※5		
	点滅具合、汚れ及び損傷	●									
施錠装置 デフロスタ及び 洗浄液噴射装置、 警告器、窓拭器、	作用			●	●			●	●	※1	
後写鏡 及び 反射鏡	写影の状態	●									後写鏡のみ
は車両番号標 車登録番号標又 反射器及び自動	汚れ及び損傷、取付状態	●									
計器	作用			●	●			●	●	※1	
マフラー ・パイプ及び エグゾースト	取付けの緩み及び損傷			●	●			●	●	※5	
	マフラーの機能				●				●		
等 とする燃料装置 高圧ガスを燃料	導管及び継手部のガス漏れ及び 損傷			●	●			●	●		×
	ベーパーライザのタール			●	●			●	●		×
	ガス容器取付部の緩み及び損傷				●				●		×
	座席のある車室との間の気密				●				●		×
車枠及び車体	ドア・ロックの機能				●			●	●		
	緩み及び損傷				●			●	●		
座席	座席ベルトの状態				●				●		
前日 の運行 状態が 認めら れた箇所	当該箇所に異状がない事を確認	●									
その他	シャシ各部の給油脂状態			●	●	●	●	●			



定期点検表

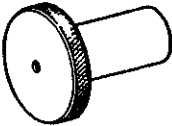
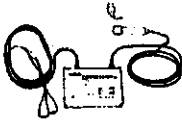


A

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							点検方法及び判定基準	備 考		
			運 行 前	自 家 用			事業用等					走 行 の キ 整 備 口 (千km)	交 換 時 期 (年毎)
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎				
制 動 装 置	保安部品	パワー・ステアリング・ホース交換								☆ (2)	( )は事業用等		
		ブレーキ液交換								☆ 1			
		ブレーキ・ホース交換								☆ 4 [5] (2)	( )は第1回目 ( )は事業用等		
		マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパのカップ及びダスト・シール等ゴム部品交換								☆ 2 [3] (1)	( )は第1回目 ( )は事業用等		
		ハイドロリック・ブースタのマスタ・シリンダ部のカップ及びダスト・シール等ゴム部品交換								☆ 4 [5] (2)	( )は第1回目 ( )は事業用等		
		バキューム・ホース交換								☆ (2)	( )は事業用等		
		プロポーショニング・バルブ交換								☆ 4 [5] (2)	( )は第1回目 ( )は事業用等 ABS仕様車は除く		
動力伝達装置	デフアル	デファレンシャル・オイル交換							(100)	(2)	( )は事業用等		
原 動 機	本体	エア・クリーナ・エレメント交換							50				
	潤滑装置	エンジン・オイル交換							5	0.5			
		オイル・フィルタ交換							20				
	燃料装置	燃料フィルタ交換							100				
	保安部品	燃料ホース交換								☆ 4 [5] (4)	( )は第1回目 ( )は事業用等		
	冷却装置	冷却水交換								2 [3] (2)	( )は第1回目 ( )は事業用等 L. L. C注入車		

## 定期点検整備要領

## 作業前の準備品

## 専用工具 (SST)

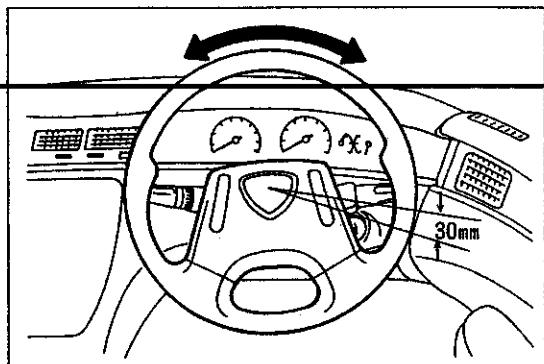
49 L033 102 キャスト・キャンバ ゲージ・アダプタ		キャスト・キャン バ・ゲージ取付け 用	49 F018 9A0 コンプレッション ・テスト		圧縮圧力測定用
49 G014 001 オイル・フィルタ・ レンチ		オイル・フィルタ 脱着用	49 1011 130A エア・ポンプ・ ゲージ・セット		エア・ポンプ 点検用

## 計測器

スケール	各部検査用	ダイヤル・ゲージ	プロペラシャフト振れ測定用
トーイン・ゲージ	トーイン測定用	タイヤ・ゲージ	タイヤの空気圧点検用
ターニング・ラジア ス・ゲージ	ハンドル切れ角測定用	巻尺	車高測定用
テンション・ゲージ	ドライブ・ベルト張力点検用	キャスト・キャンバ ・ゲージ	キャスト及びキャンバ測定用
CO、HCテスト	CO、HC濃度測定用	比重計	バッテリー液比重測定用
ラジエータ・キャッ プ・テスト	ラジエータ・キャップ点検用	コンプレッション・ ゲージ	圧縮圧力測定用
タコ・ドエル・ メータ	エンジン回転数調整用	タイミング・ライト	点火時期調整用

油脂類、その他

純正汎用グリース	各部塗布用	ディスク・ブレーキ・グリース	ブーム、ベアリング、スリーブ等の塗布用
純正ブレーキ・フルード	各部塗布用及び補充用	純正ATF (M-Ⅲ)	トランスミッション注入用
純正ロングライフ・ハイポイド・ギヤ・オイル	ディファレンシャル注入用	モリペースト・スプレー	スパーク・プラグ塗布用



## かじ取り装置

## ハンドル

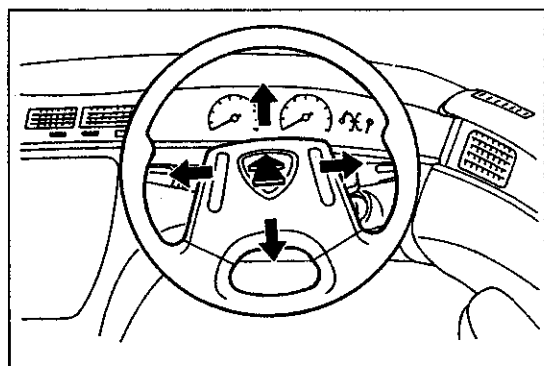
## 遊び、緩み及びがた

## 注意

- ・アイドリング状態で点検する。

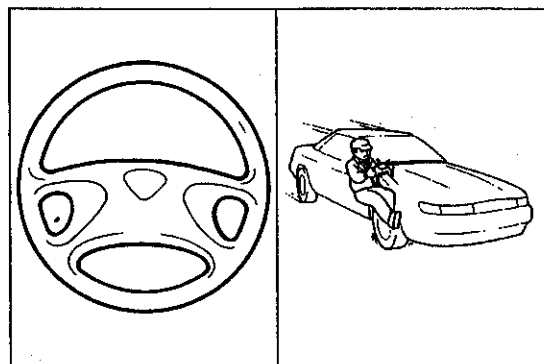
1. 車両を直進状態にし、ハンドルを手で円周方向に軽く回し、タイヤが動き始めるまでのハンドルの遊び量をスケールを使用して測定する。

標準値 0～30mm (油圧作動時)



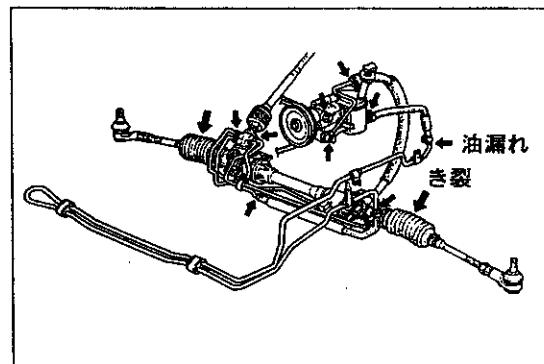
2. ハンドルを手で持ち、軸方向及び上下方向に動かして緩み、がたを点検する。

- ・ハンドルの取付け状態
- ・シャフト、ベアリング、カップリングのがた
- ・コラムの取付けの緩み



## 操作具合

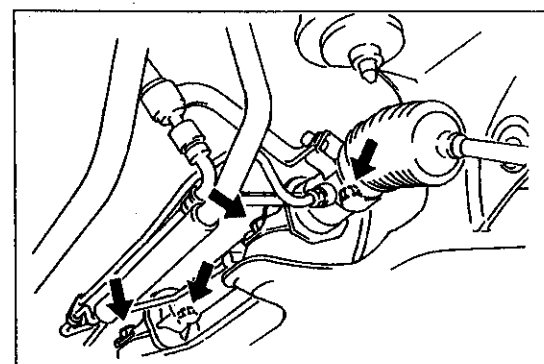
1. 走行し、直進状態でハンドルのスポークの位置が正規であることを点検する。
2. ハンドルの振れ、取られ、もどり、ふらつき、重さを点検する。



## ギヤ・ボックス

## 油漏れ

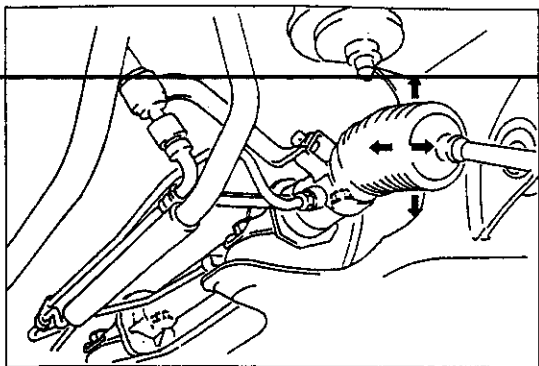
1. 車両をリフト・アップし、ラックのブーツの亀裂、損傷を目視により点検する。
2. 左右のブーツよりグリースが漏れていないか目視により点検する。
3. ギヤ・ボックスとオイル・ポンプ間の油漏れを目視により点検する。



## 取付けの緩み

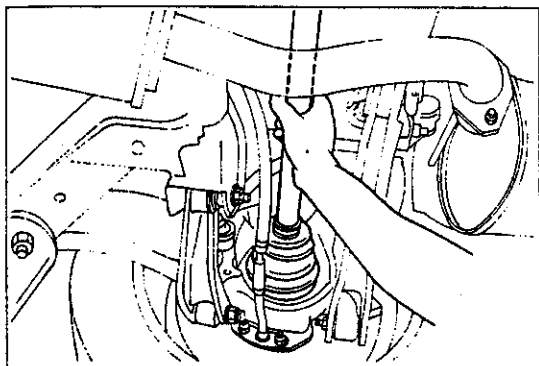
1. 車両をリフト・アップし、ギヤ・ボックスとフレームとの取付けに緩みがないかスパナなどの工具を使い点検する。

締付けトルク 3.8～5.3kgm



軸受部のがた

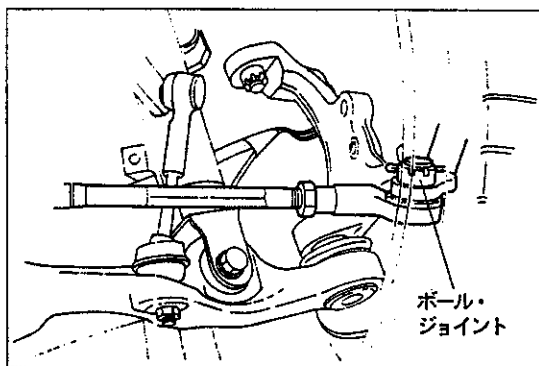
1. 車両をリフト・アップし、タイロッドを手で持ち、軸方向および直角方向に動かして、ボール・ジョイントのがたを点検する。
2. ステアリング・シャフトを手で回転させ、異音、引っかかり、重さを点検する。



ロッド及びアーム類

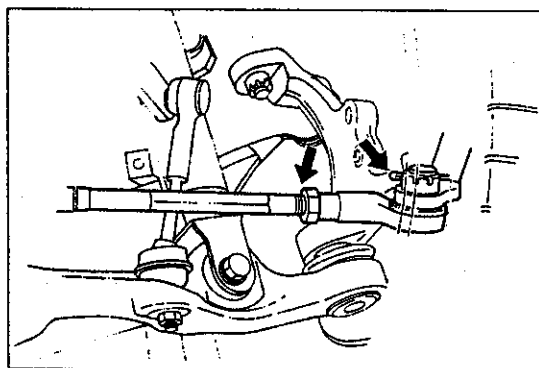
緩み、がた及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、ドライブ・シャフトを手で揺するなどして、取付け部の緩み、可動部のがたがないか点検する。
2. ロッド、アーム類に損傷・曲がりがないか目視により点検する。
3. 割ピンが欠損していないか点検する。



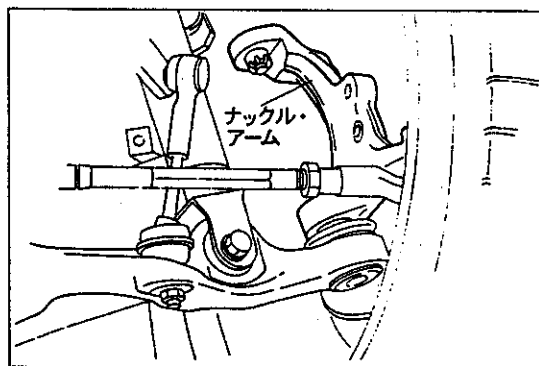
ボール・ジョイントのダスト・ブーツの亀裂及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、ボール・ジョイントのブーツに亀裂・損傷がないか目視により点検する。



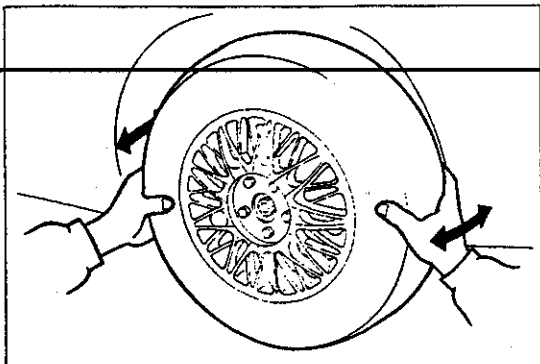
連結部の摩耗及び取付状態

1. 車両をリフト・アップし、連結部が正規の状態に取付けられているか目視により点検する。



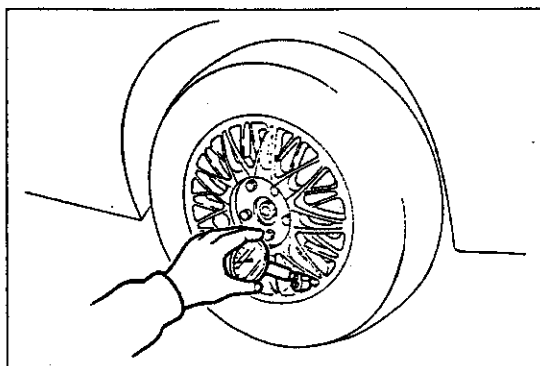
ナックル・アームの亀裂及びナックルとの取付状態

1. 車両をリフト・アップし、ナックル・アームに亀裂がないか目視により点検する。亀裂・損傷があれば交換する。



### ナックル 連結部のがた

1. 車両をリフト・アップし、フット・ブレーキを作動させ、タイヤの前後に手をかけて内外に動かし、ボール・ジョイントのがたを点検する。



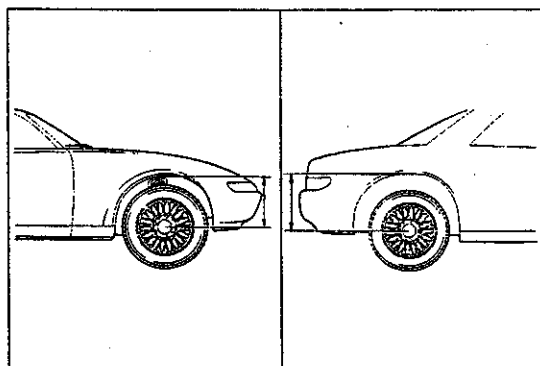
### かじ取り車輪 ホイール・アライメント

#### 参考

- ・タイヤの異常摩耗、ハンドルの振れなどの異常が認められない場合は、サイド・スリップ・テストで点検してもよい。

#### 〈作業前の注意〉

1. タイヤの空気圧を点検し、必要ならば指定空気圧に調整する。
2. ホイール・ベアリングの遊びを点検し、必要ならば修正する。
3. ホイール及びタイヤの振れを点検する。
4. ステアリング・ボール・ジョイント及びサスペンション・ボール・ジョイントにがたが無いことを点検する。
5. ショック・アブソーバが正しく作動しているかボデーをゆすって点検する。
6. 左右の車高差（フェンダ端面からホイール中心までの寸法）が10mm以内、前後差（リヤ＜フロント）が $30 \pm 10$ mmであることを点検する。
7. 車両を空車状態で水平な場所に置き、ホイールを直進状態にする。

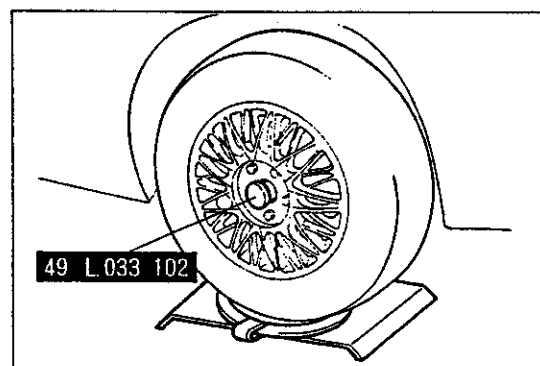
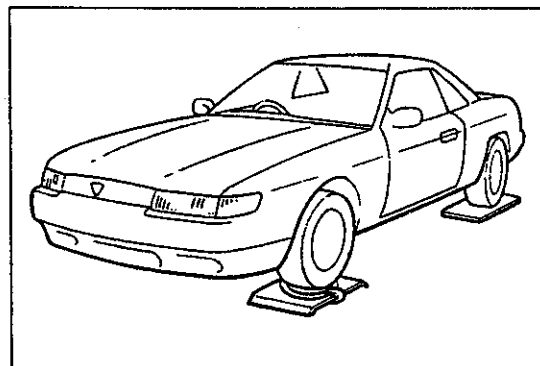


#### 〈キャンバ/キャスト〉

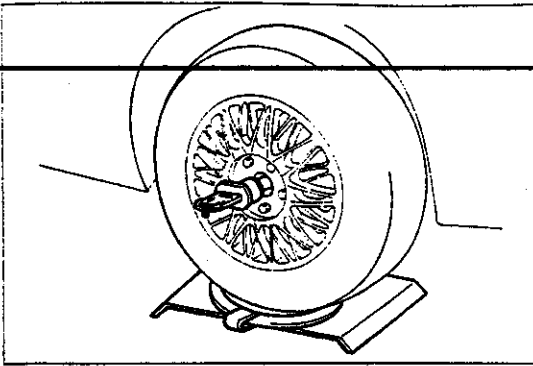
1. 前輪をターニング・ラジাস・ゲージにのせる。

#### 注意

- ・車両を水平に保持し、車両が動かないようにブレーキ・プレッシャ・ツール等を使用して、フット・ブレーキを効かしておく。この場合は、ストップライト・ヒューズを取外す。



2. ホイール・ハブ・キャップを取外す。
3. ホイール・ハブ・ロックナットを外し、SSTを手で締めて取付ける。

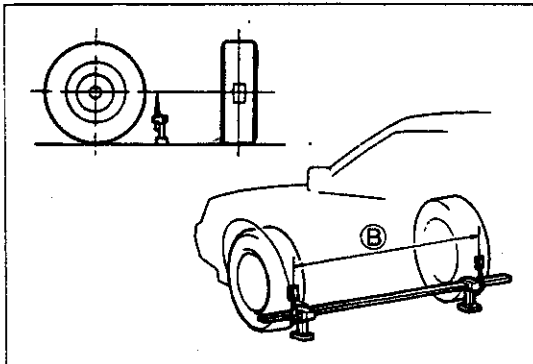


4. SSTにキャスト・キャンバ・ゲージを取付け、キャスト及びキャンバを測定する。

キャンバ角 標準値  $0^{\circ}05' \pm 45'$   
 左右差  $1^{\circ}$ 以下  
 キャスタ角 標準値  $9^{\circ}00' \pm 45'$   
 左右差  $1^{\circ}30'$ 以下

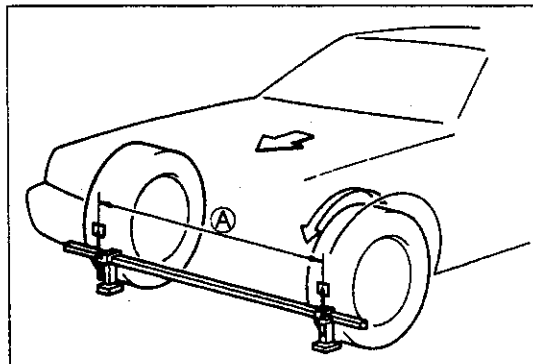
5. ホイール・ハブ・ロックナットを規定トルクで締付ける。

締付けトルク 18~24kgm

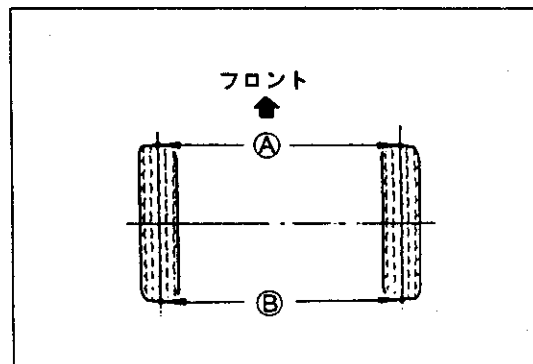


<トーイン>

1. 車両をゆすり、車高を安定させる。
2. トーイン・ゲージの指針高さをフロント・ホイール軸中心高さに合わせ、タイヤの後側に入れる。
3. 前輪タイヤ各々のトレッド中心を印し、マーク間の距離(Ⓑ寸法)を測定する。
4. 車両を押して前進させ、前輪を180°回転させる。



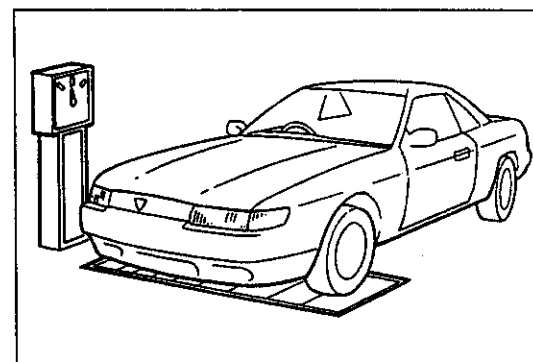
5. 車両前部でマーク間の距離(Ⓐ寸法)を測定する。



6. Ⓑ寸法-Ⓐ寸法を求め、標準値外なら調整する。

(参照: p. R-7)

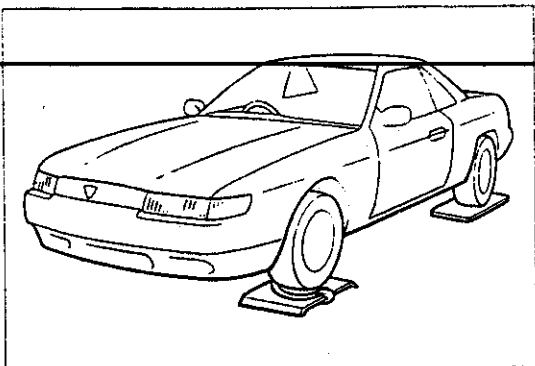
標準値 1~7mm



<サイド・スリップ>

1. サイド・スリップ・テストに車両を静かにまっすぐ入れ、通過した時のサイド・スリップ量を点検し、標準値外の場合はフロント・ホイール・アライメントが正しいか点検する。

標準値 アウト5mm~イン5mm

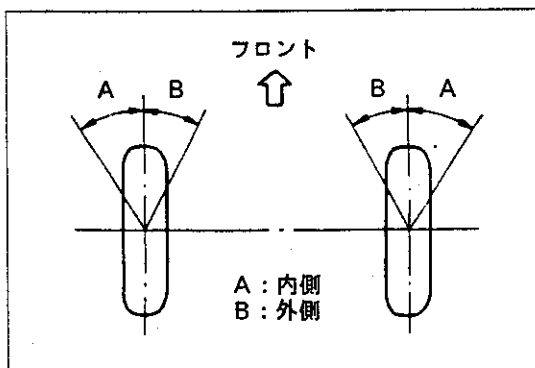


## 左右の回転角度

1. ターニング・ラジাস・ゲージを0°点にロックする。
2. ターニング・ラジাস・ゲージの中心にタイヤの接地面中心がくるように、前輪を静かにターニング・ラジাস・ゲージにのせ、ロックを解除する。

## 参考

- ・ポータブル・タイプのターニング・ラジাস・ゲージを使用する場合は、車両を水平に保持するために、後輪にターニング・ラジাস・ゲージと同じ厚さの台を置く。
- ・車両が動かないようにブレーキ・プレッシャ・ツール等を使用して、フット・ブレーキを効かしておく。この場合は、ストップライト・ヒューズを取外す。

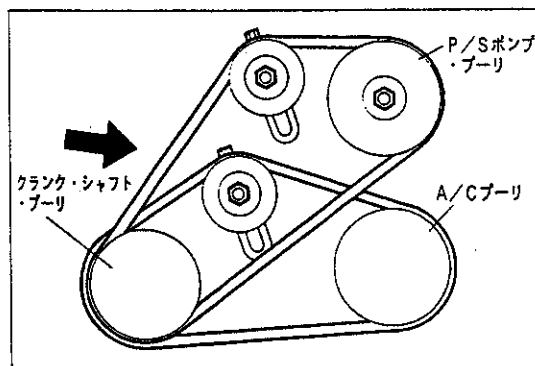


3. 切れ角を点検する。

切れ角 内側  $37^{\circ}00' \pm 2^{\circ}$

外側  $33^{\circ}00' \pm 2^{\circ}$

4. 規定範囲外の場合は調整する。(参照：p. R-7)



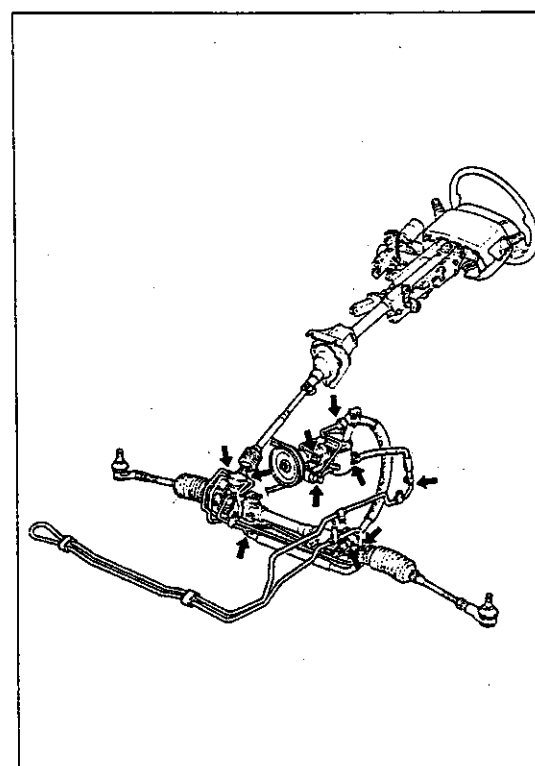
## パワー・ステアリング装置

## ベルトの緩み及び損傷

1. オイル・ポンプ・ベルトの側面及び内面の損傷を目視により点検する。
2. プーリ間のベルトの中央部を10kgの力で押し、ベルトのたわみ量を点検する。

標準値 新品時 11~13mm

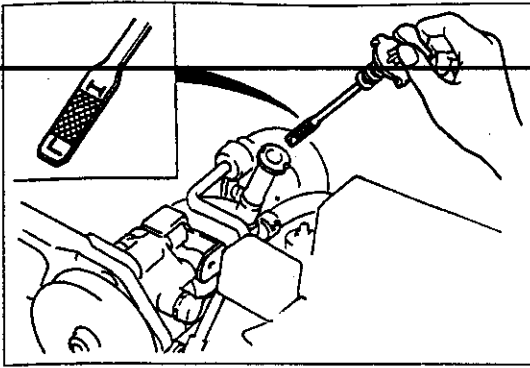
点検時 14~16mm



## 油漏れ及び油量

1. 各部の油漏れ及びホースの損傷、亀裂がないか目視により点検する。

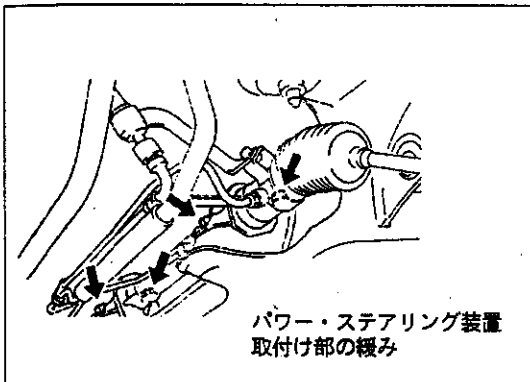




注意

- ・フルードは純正ATF（D-II又はM-III）を使用する。
- ・点検は運転前の冷間時に行う。

2. リザーバ・タンクのキャップを外し、レベル・ゲージのH～L間にフルードがあるか点検する。フルード量が規定量ない時は、給油し、規定量以上の時は、抜き取る。



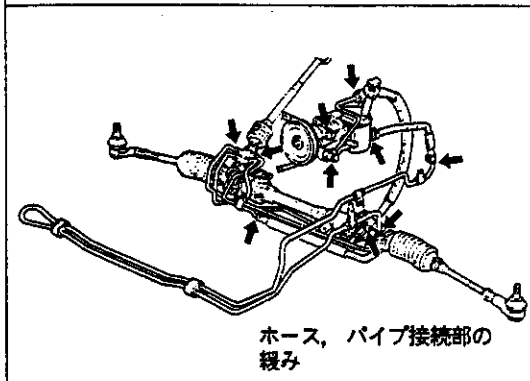
パワー・ステアリング装置  
取付け部の緩み

取付けの緩み

1. 車両をリフト・アップし、パワー・ステアリング装置の取付け部、ホース、パイプの接続部に緩みがないかスパナなどの工具を使い点検する。

締付けトルク

ギヤ・ボックス取付けボルト	3.8～5.3kgm
ホース・ジョイント	3.5～4.5kgm



ホース、パイプ接続部の  
緩み

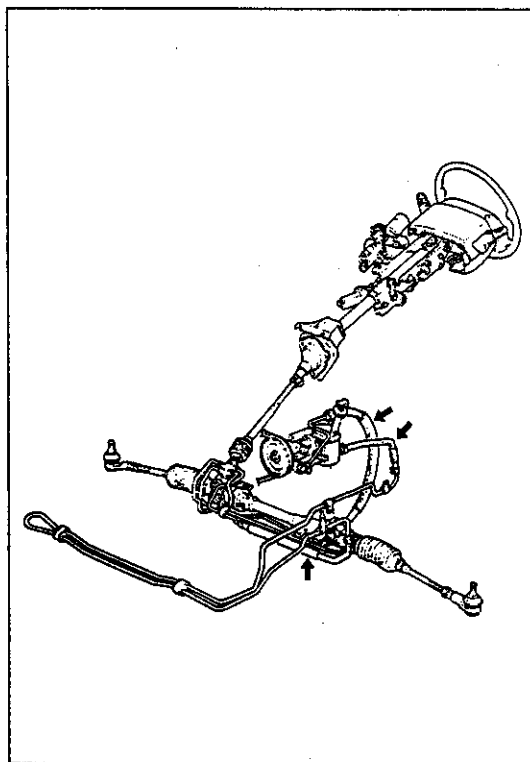
推奨項目

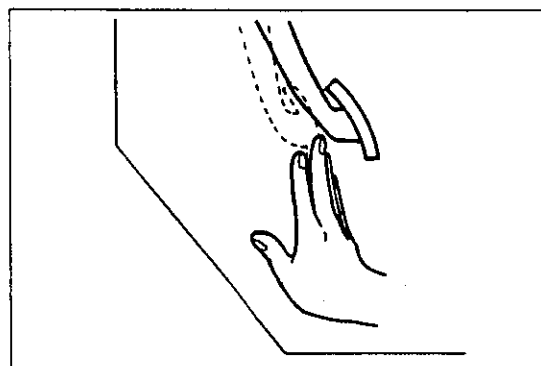
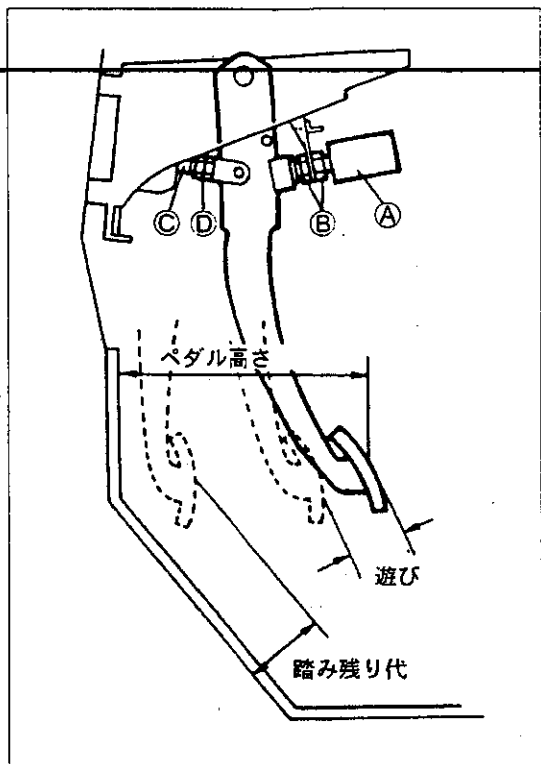
パワー・ステアリング・ホース交換

1. 図に示すパワー・ステアリング・ホース（プレッシャ・ホース、リターン・ホース）を取外し、新品と交換する。

締付けトルク 3.5～4.5kgm

2. パワー・ステアリングのエア抜きを行う。
3. パワー・ステアリング・ホース接続部より、オイル漏れがないことを点検する。





## 制動装置

## ブレーキ・ペダル

遊び及び踏み込んだときの床板とのすき間(4WABS非装着車)

1. ペダルを数回、強く踏み込みパワー・ブレーキ・ユニット内の負圧をなくした後、ペダルを軽く押し、遊びの量をスケールで測定する。

標準値 3～8mm

2. 遊びの量が標準値にない場合は、調整する。

(参照：p. P-9)

3. ブレーキ・ペダルを踏力60kgで踏み込んで止まった位置のペダル・パッド上面中央と床板とのすき間をスケールで測定する。

標準値 66mm以上

## 参考

- ・ブレーキ・ペダルの踏みごたえがやわらかく感じられる時は、空気が混入しているおそれがある。

4. ブレーキ・ペダルの踏み込み具合から、空気の混入、ピンのがたなどの異常を点検する。

遊び及び踏み込んだときの床板とのすき間(4WABS装着車)

1. ペダルを数回(約20回程度)踏み込み、ハイドロリック・ユニットのアクュームレータ圧を無くした後、ペダルを指で軽く押し、遊びが標準値であるか測定する。

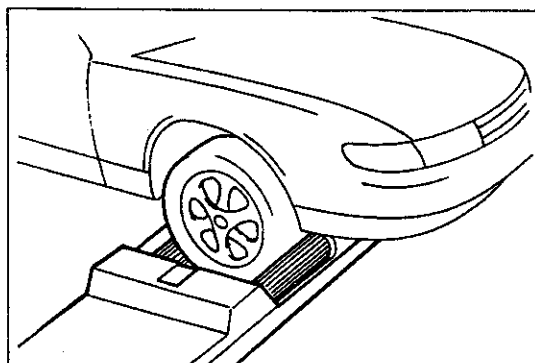
標準値 12～15mm

2. エンジンを始動し、ペダルを踏力60kgで踏み込んで止まった位置のペダル・パッド上面中央と床板とのすき間をスケールで測定する。

標準値 66mm以上

3. 踏み残りしろが標準値以下であれば、次の点検をする。

## (1)ブレーキ系統のエア混入



## ブレーキのきき具合

1. 走行して点検する場合

- (1)乾燥した路面で走行して、きき具合は充分か、片ききがないか点検する。

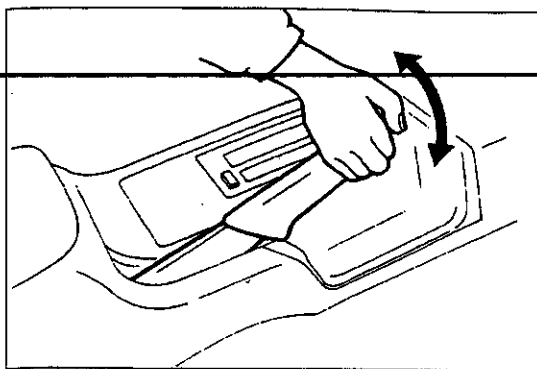
制御停止距離 初速50km/h時15.0m以内

2. ブレーキ・テストで点検する場合

- (1)ブレーキ・テストを用いて、制動力が標準値にあることを点検する。

## 判定基準

		制 動 力
各 輪	左右和	軸重の60%以上
	左右差	軸重の8%以下
総和		車両重量の60%以上



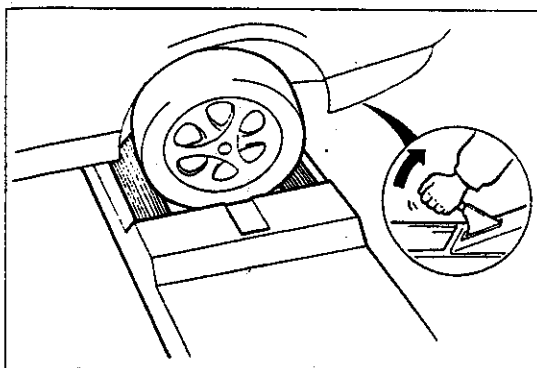
### 駐車ブレーキ・レバー

#### 引きしろ

1. ブレーキ・レバーを20kgで引いた時、ノッチ数（ラチェットのかみ込む音）が規定の範囲にあるか点検する。

引きしろ 11～15ノッチ

全ストローク 20ノッチ



### ブレーキのきき具合

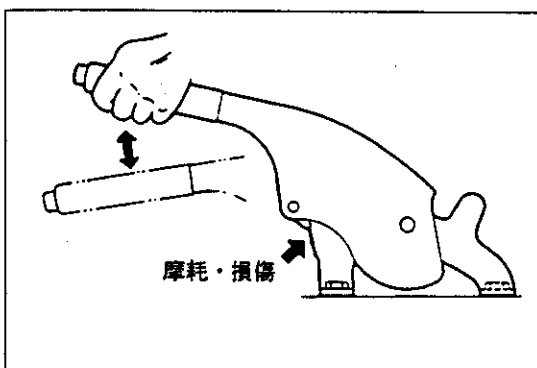
1. 坂道で走行して点検する場合

(1) 乾燥した坂道で、停止状態で保持できるか点検する。坂道がない場合は、低速走行の状態でブレーキ・レバーを引き、きき具合を点検する。

2. ブレーキ・テストで点検する場合

(1) ブレーキ・テストを用いてブレーキ・レバーを50kg以下で引いた時の制動力が規定の範囲内にあることを点検する。

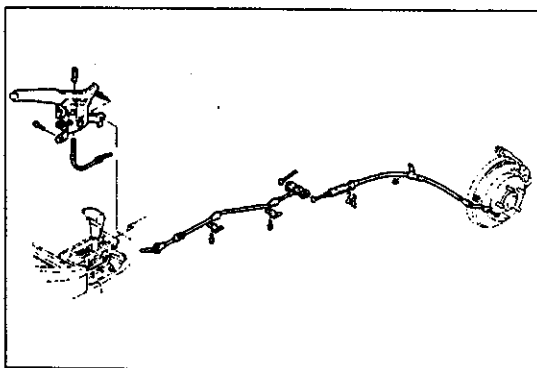
制動力 車両重量の20%以上



### ラチェット部の摩耗及び損傷

1. ラチェット部の歯形に摩耗、損傷がないことを目視により点検する。

2. ブレーキ・レバーを引いたりもどしたりして、レバー操作がスムーズでレバーが確実にロックされることを点検する。

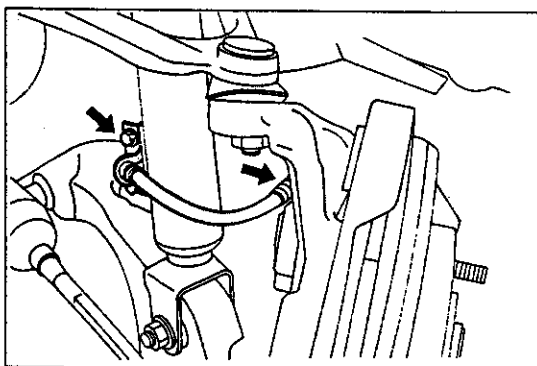


### ロッド及びケーブル類

#### 緩み、がた及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、ブレーキ・レバーを反復作動させ、ロッド、ケーブル類に損傷がないことを、また、連結部に緩み、がた、損傷がないことを目視により点検する。

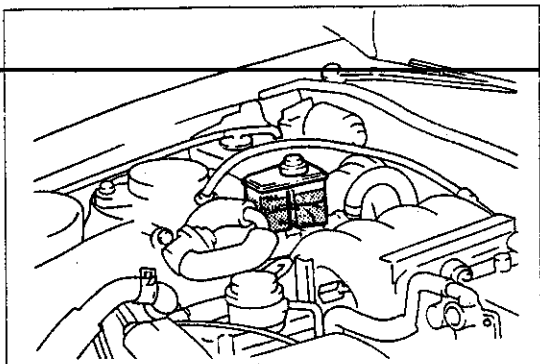
2. ケーブルのクランプに緩みがないことを目視により点検する。



### ホース及びパイプ

#### 漏れ、損傷及び取付状態

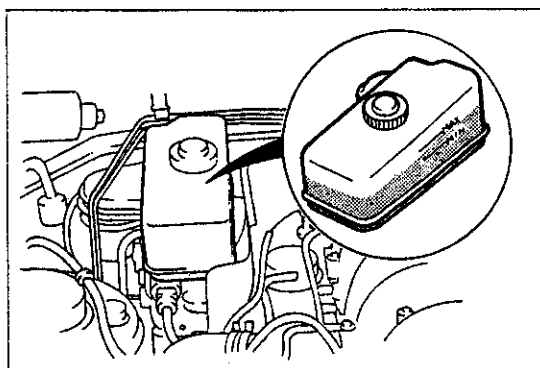
1. ハンドルを左と右にいっぱい切り、フロント・ブレーキのホース、接続部の液漏れ、損傷がないことを、また、ホースが車体、その他の部分に接触していないことを目視により点検する。



## リザーバ・タンク

## 液量（4WABS非装着車）

1. リザーバ・タンクの液量がMAXとMIN間にあることを目視により点検する。
2. リザーバ・キャップ通気孔のつまりを点検する。
3. リザーバ・タンク、リザーバ・ホース周辺から液漏れがないことを目視により点検する。

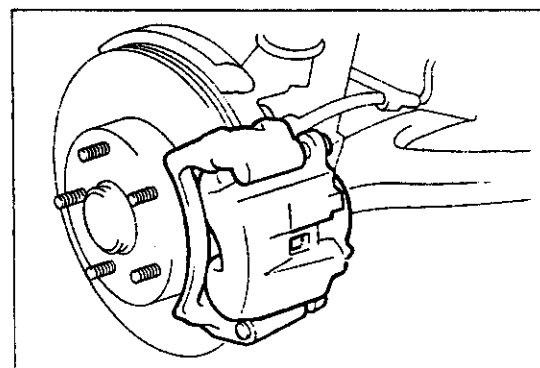


## 液量（4WABS装着車）

1. ブレーキ・フルード量がMIN～MAX間にあることを点検する。
2. 量が不足の場合は、IG・ONにして、ブレーキ・ペダルを数回踏み込んで、ハイドロリック・ユニットのポンプを作動させる。
3. ポンプが作動したら、ブレーキ・ペダルを離してポンプが停止する（作動音が停止する）のを待つ。

## 注意

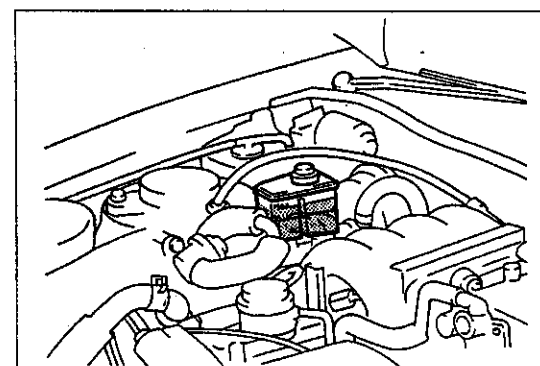
- ・ブレーキ・フルード量がMAXラインを越えていると、アキュムレータ液圧が排出された時、リザーバ・キャップよりあふれることがあるので注意する。
4. ポンプが停止したら、その状態でブレーキ・フルードをMAXラインまで補充する。



## マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ及びディスク・キャリパ

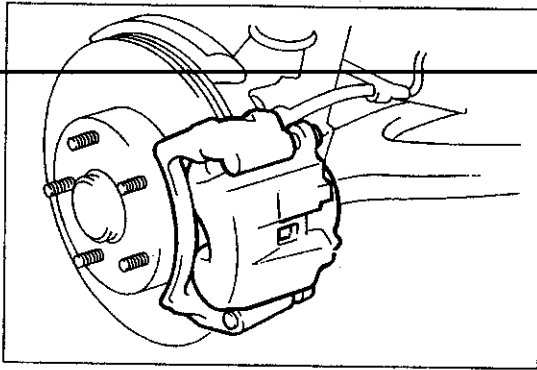
## ホイール・シリンダ及びディスク・キャリパの液漏れ

1. 車両をリフト・アップしてタイヤを外し、ディスク・キャリパに液漏れがないことを目視により点検する。



## 機能、摩耗及び損傷

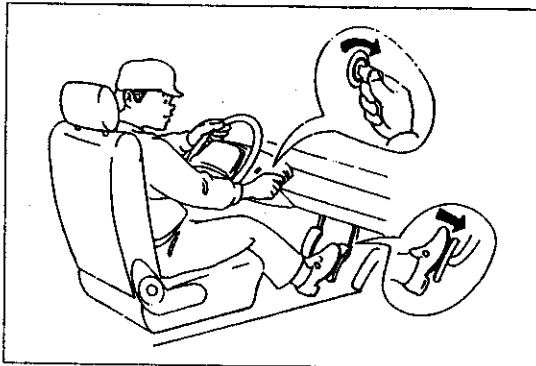
1. ブレーキ・ペダルを踏んでマスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパの作動具合が不良でないことを点検する。
2. マスタ・シリンダに損傷、液漏れがないことを、目視により点検する。



注意

- ・必要がある場合は、マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパを分解し、シリンダ、ピストン・カップ、チェック・バルブなどに損傷がないことを目視により点検する。

3. 車両をリフト・アップし、タイヤを外し、ディスク・キャリパに損傷、液漏れがないことを目視により点検する。



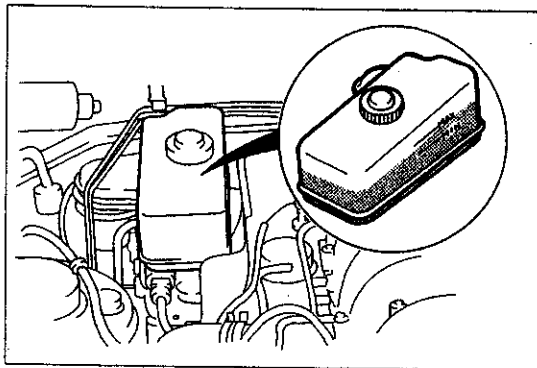
倍力装置（4WABS非装着車）

機能

1. エンジン停止状態で、ブレーキ・ペダルを数回踏んでから、次にブレーキ・ペダルを強く踏んだまま、エンジンを始動し、ブレーキ・ペダルと床板とのすき間が減少することを点検する。

油密及び気密

1. ブレーキ・ペダルと床板とのすき間が減少した後、その状態でエンジンを停止し、ペダルを踏んだまま30秒間保持して、ペダル高さに変化がないことを点検する。



倍力装置（4WABS装着車）

機能、油密及び気密

1. ブレーキ・フルード量がMIN～MAX間にあることを点検する。
2. 量が不足の場合は、IG・ONにして、ブレーキ・ペダルを数回踏み込んで、ハイドロリック・ユニットのポンプを作動させる。
3. ポンプが作動したら、ブレーキ・ペダルを離してポンプが停止する（作動音が停止する）のを待つ。

注意

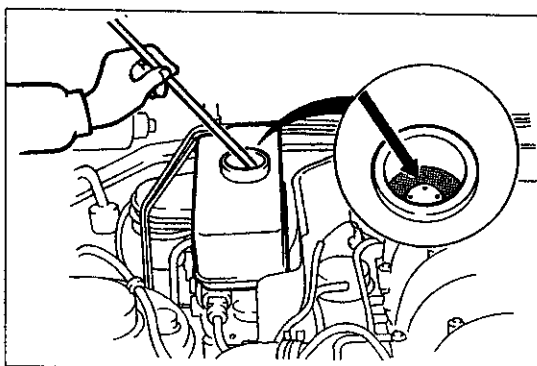
- ・ブレーキ・フルード量がMAXラインを越えていると、アキュムレータ液圧が排出された時、リザーバ・キャップよりあふれることがあるので注意する。

4. ポンプが停止したら、その状態でブレーキ・フルードをMAXラインまで補充する。

参考

- ・警告灯はフロートを押し下げていくと、先にブレーキ警告灯が点灯し、後に4WABS警告灯も点灯する。

5. リザーバ内のフロートを押しして、ブレーキ警告灯と4WABS警告灯が点灯するか確認する。



### ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー ドラムとライニングとのすき間

1. ディスク・プレートのサービス・ホール・キャップを取外す。
2. ⊙ドライバを使用して、矢印方向にアジャスタを回し、ディスク・プレートをロックさせる。
3. 次に、ディスク・プレートが軽く回転するまでアジャスタをもどす。

### シューの摺動部分及びライニングの摩耗

1. 車両をリフト・アップし、ディスク・プレートを取外し、シューの作動状態に異常がないことを、またライニングに異常な摩耗、損傷、はく離がないことを目視により点検する。

#### 注意

- ・必要な場合、ブレーキ・シューを取外し、シューの摺動部分の摩耗、損傷、リターン・スプリングの衰退、調整装置の作動状態を点検する。

2. ライニングの厚さを測定する。

標準値 3.5mm

限度値 1.0mm

### ドラムの摩耗及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、ディスク・プレートを取外し、ディスク・プレート内面に異常な摩耗、損傷などがないかを目視により点検し、また計測する。

標準径 190.0mm

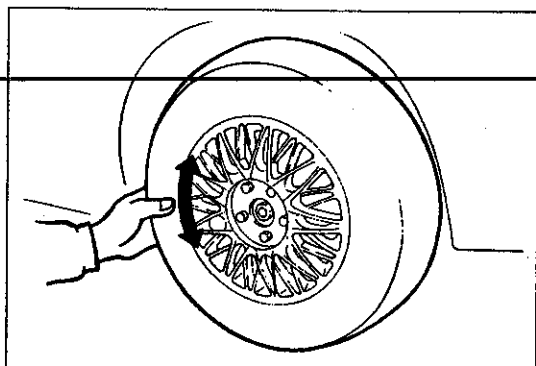
使用限度 191.0mm

### バック・プレート

#### バック・プレートの状態

1. 車両をリフト・アップし、バック・プレートに損傷、亀裂、変形がないことを目視により点検する。
2. スパナなどの工具を使用して取付けボルトに緩みがないことを点検する。

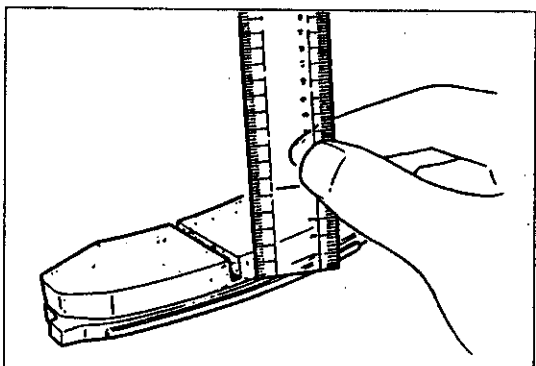
締付けトルク 1.6～2.3kgm



ブレーキ・ディスク及びパッド

ディスクとパッドとのすき間

1. 車両をリフト・アップし、ブレーキ・ペダルを数回踏込んで、パッドを安定させた後、タイヤを手で回し、引きずりがないことを点検する。



パッドの摩耗

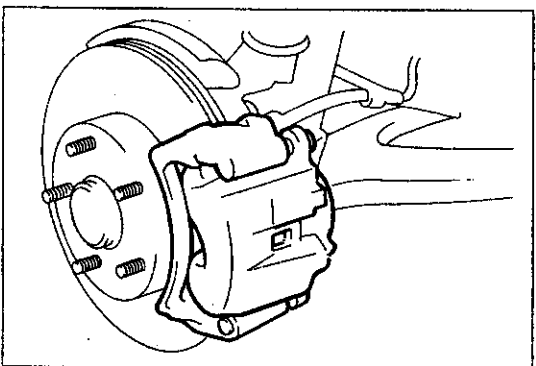
1. 車両をリフト・アップしてパッドを取外し、スケールを使用して、パッドの厚みを測定する。

標準値 前輪 10.0mm

後輪 10.0mm

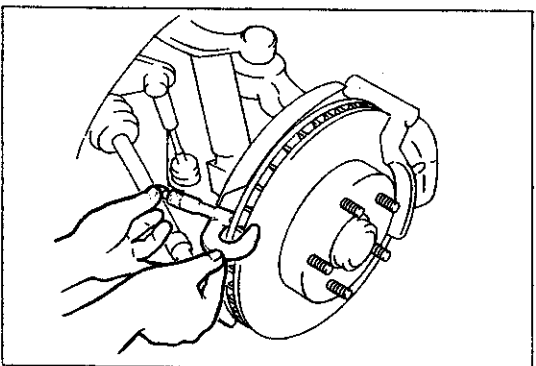
限度値 前輪 1.0mm

後輪 1.0mm



ディスクの摩耗及び損傷

1. 車両をリフト・アップしてタイヤを取外し、ディスクに摩耗、損傷がないことを目視により点検する。



2. ディスク・プレートの厚さを測定する。

(前輪)

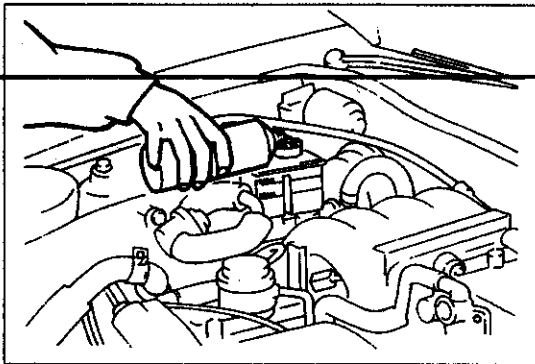
標準値 24.0mm

限度値 22.0mm

(後輪)

標準値 18.0mm

限度値 16.0mm



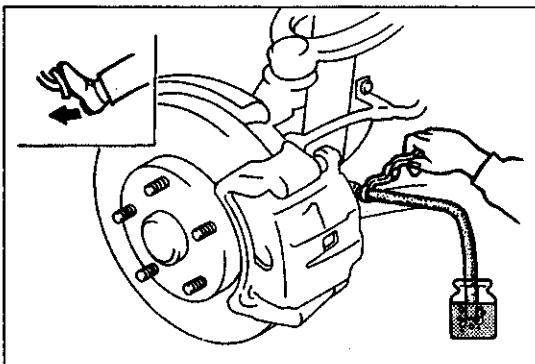
## 推奨項目

## ブレーキ液交換（4WABS非装着車）

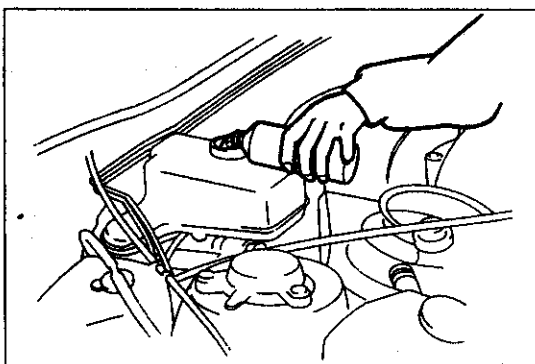
1. リザーバ・タンク内のブレーキ液をスポイドなどで抜き取り、新しいブレーキ液（純正ブレーキ・フルード）を注入する。

## 注意

- ・ブレーキ液交換時、リザーバ・タンク内のブレーキ液は、常に半分以上量があるように補給しておく。



2. ブリーダ・プラグをゆるめ、ブレーキ・ペダルを踏み、新しいブレーキ液が出るのを確認した後、ブリーダ・プラグを締める。
3. ブレーキ液をリザーバ・タンク内の上限（MAX）まで補給する。
4. ブレーキ・ペダルを踏んだ状態で、各ブリーダ・プラグより液漏れがないことを、また踏みごたえにより、エアが混入していないことを点検する。
5. もし、エアが混入している場合は、エア抜きを行う。



## ブレーキ液交換（4WABS装着車）

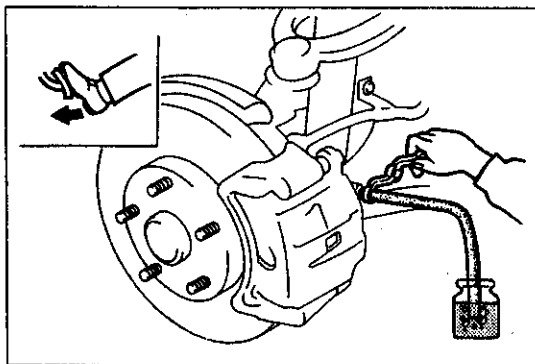
## 注意

- ・ブレーキ・フルード注入の際は、他の部品に付着させない。

1. リザーバ・タンクに、純正ブレーキ・フルードを満たす。
2. ビニール・ホースの一方をブレーキ・フルードを満たした透明な容器に入れ、もう一方を車両フロント側のホイール・シリンダ（キャリパ）のブリーダ・スクリュに接続する。
3. 2人作業で行い、一方の作業者がブレーキ・ペダルを数回踏み込み、踏んだままの状態を保持する。

## 注意

- ・2人の作業者は声をかけ合う。
- ・この作業は必ずペダルを踏み込んだ状態で行う。

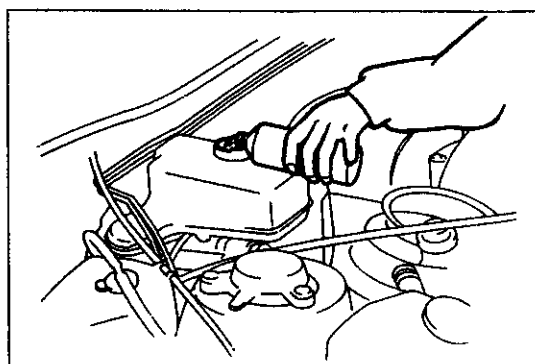


4. もう一方の作業者は、ブリーダ・スクリュをゆるめて、フルードを抜き、再びスクリュを締付ける。

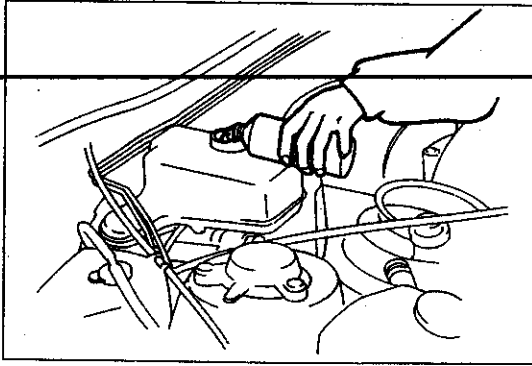
## 注意

- ・ブレーキ液交換作業中、ブレーキ・フルード量がMINライン以下にならないようにする。

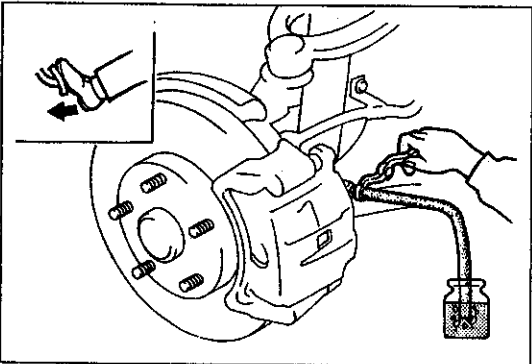
5. 前記3，4の作業をビニール・ホースから新しいフルードが出るまで繰り返す。







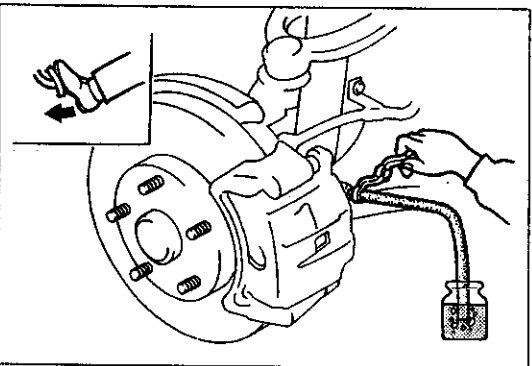
6. IG・ONにしてブレーキ・ペダルを4～5回ストロークさせ、 hidroリック・ユニットのポンプの作動が停止（作動音が停止する）したら、ブレーキ液をMAXラインに合わせる。
7. ビニール・ホースの一方をブレーキ・フルードを満たした透明な容器に入れ、もう一方を車両リヤ側のホイール・シリンダ（キャリパ）のブリーダ・スクリュに接続する。



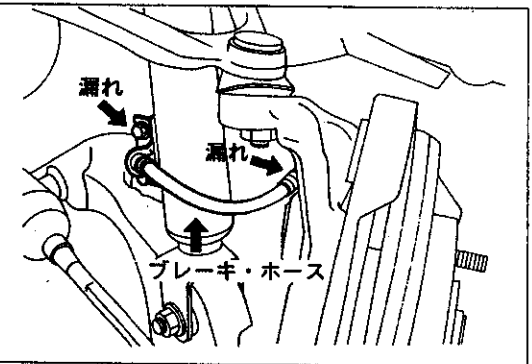
8. IG・ONのまま、2人作業で行い、一方の作業者がブレーキ・ペダルを踏み込み、踏んだままの状態を保持する。

注意

- ・ 2人の作業者は声をかけ合う。
- ・ この作業は必ずペダルを踏み込んだ状態で行う。
- ・ モータが回り放しにならない様に（2分以上連続運転させない）ペダルの踏み込みは間隔をあけて行う。

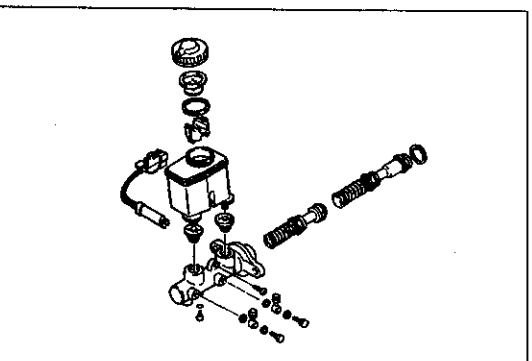


9. もう一方の作業者は、ブリーダ・スクリュをゆるめて、フルードを抜き、再びスクリュを締付ける。
10. 前記8, 9の作業をビニール・ホースから新しいフルードが出るまで繰り返す。
11. リザーバ・タンクのブレーキ・フルード量を点検し、必要な場合は、規定レベルまで純正ブレーキ・フルードを補充する。



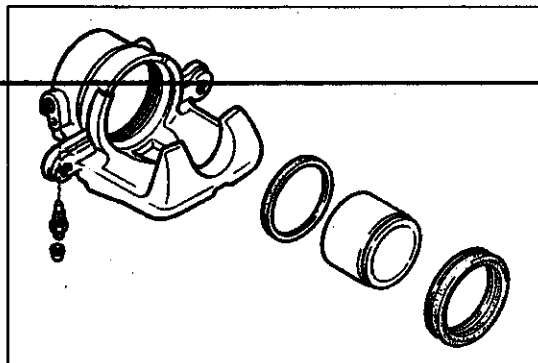
ブレーキ・ホース交換

1. 車両をリフト・アップし、ブレーキ・ホースを交換する。
2. リザーバ・タンクにブレーキ液（純正ブレーキ・フルード）を注入する。
3. ブレーキ・ペダルを踏んだ状態で、ブレーキ・ホース接続部より、ブレーキ液の漏れがないことを目視により点検する。また、ブレーキ・ホースのねじりや他の部品へ接触していないことを確認する。

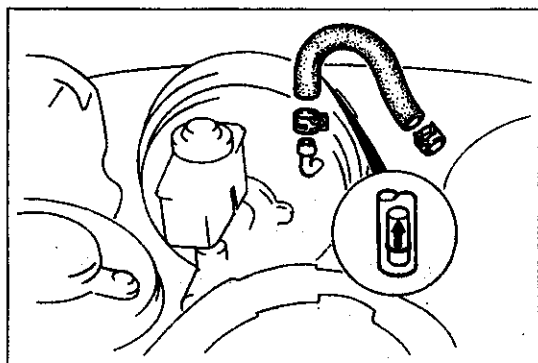


マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパのカップ及びダスト・シール等ゴム部品交換

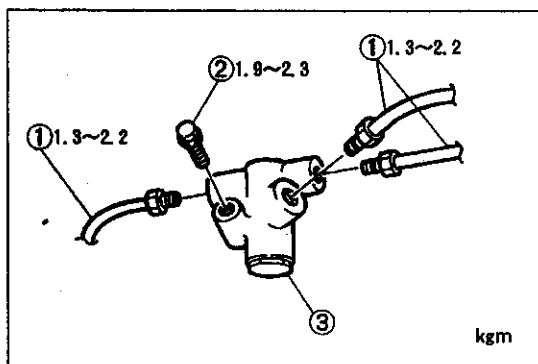
1. マスタ・シリンダのインナ・パーツ交換
  - (1) マスタ・シリンダを取外し、分解する。（参照：p. P-11）
  - (2) インナ・パーツを交換する。
  - (3) マスタ・シリンダを組付け、車両に取付ける。



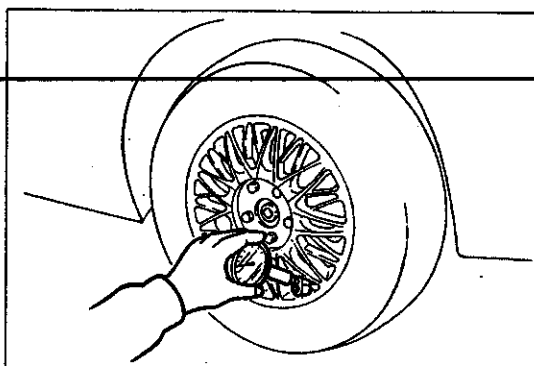
2. ディスク・キャリパのインナ・パーツ交換
  - (1) ディスク・キャリパを取外し分解する。
  - (2) インナ・パーツを交換する。
  - (3) ディスク・キャリパを組付け、車両に取付ける。
3. ブレーキのエア抜きを行う。
4. ブレーキ・ペダルを踏んだ状態で、マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパより、ブレーキ液の漏れがないことを目視により点検する。



- バキューム・ホース交換（4WABS非装着車）
1. バキューム・ホースを取外し、新品と交換する。
  2. 倍力装置（パワー・ブレーキ・ユニット）の作動点検を行う。



- プロポーションング・バルブ交換（4WABS非装着車）
1. リザーバ・タンク内のブレーキ液をスポイドなどで抜き取る。
  2. プロポーションング・バルブを取外し、新品と交換する。
  3. ブレーキのエア抜きを行う。
  4. ブレーキ・ペダルを踏んだ状態で、プロポーションング・バルブ接続部よりブレーキ液の漏れがないことを目視により点検する。



## 走行装置

### ホイール

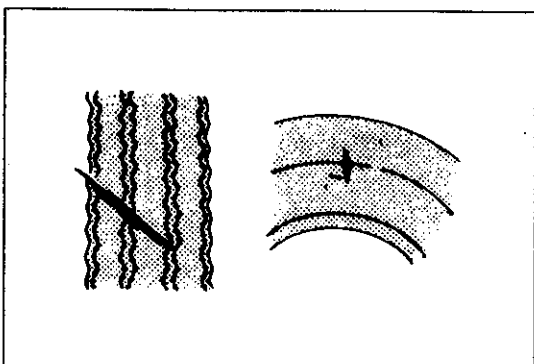
#### タイヤの空気圧

1. タイヤ・ゲージを用いて、空気圧が標準値にあることを点検する。

#### 標準値

(単位: kg/cm<sup>2</sup>)

タイヤ仕様	前輪	後輪
215/60R 15 90H		1.9
225/50R 16 92V		2.0
T135/70 D 15		4.2



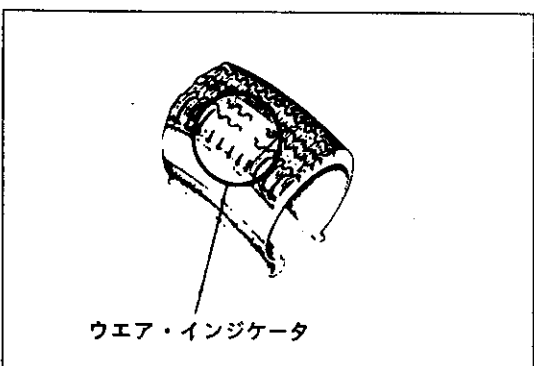
#### タイヤの亀裂及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、タイヤの接地面全周と、両側面に亀裂、損傷がないことを目視により点検する。

#### タイヤの溝の深さ及び異状な摩耗

1. タイヤの接地面に設けられているウェア・インジケータの表示により点検する。ウェア・インジケータが見えているようであれば、タイヤを新品に交換する。
2. タイヤの接地面の全周にわたり、溝の深さが、1.6mm以上あることをデプス・ゲージにより測定し、無いものは交換する。
3. タイヤに偏摩耗、段付き摩耗その他の異状摩耗がないことを目視により点検する。

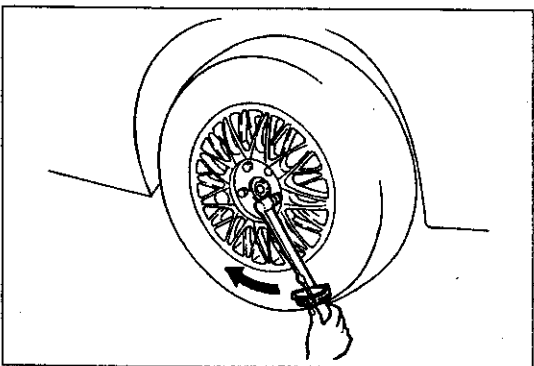
異状があればホイール・アライメントを点検し、調整する。



ウェア・インジケータ

#### タイヤの金属片、石その他の異物

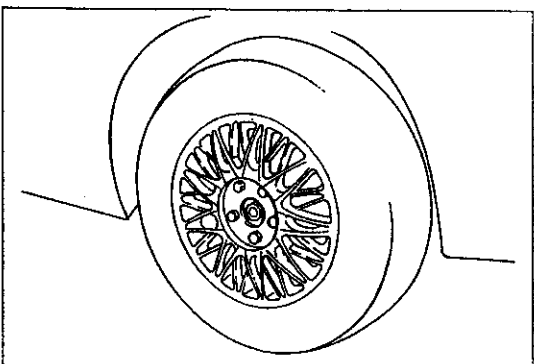
1. タイヤの接地面の全周と両側面のくぎ、石その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないことを目視により点検し異物を取り除く。



#### ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み

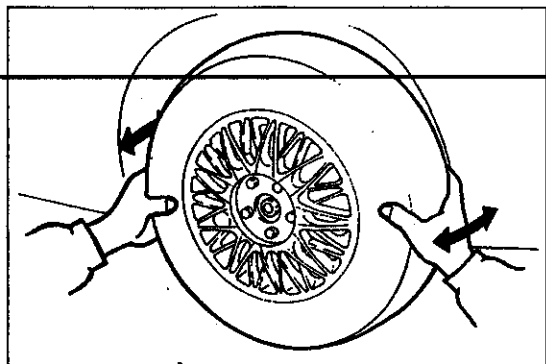
1. ホイール・ナット・レンチを使用してホイール・ナットに緩みがないことを点検する。

締付けトルク 9.0~12.0kgm



#### リム、及びホイール・ディスクの損傷

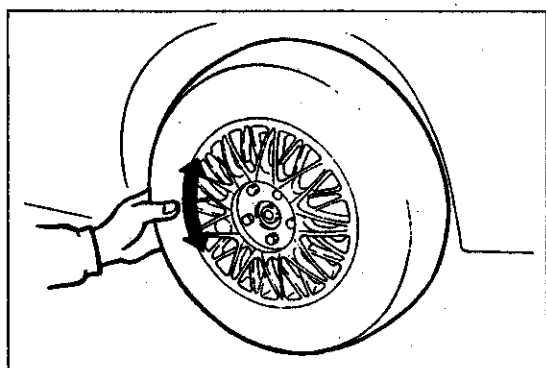
1. リムとホイール・ディスクに損傷、腐食などがいないことを目視により点検する。



## フロント・ホイール・ベアリングのがた

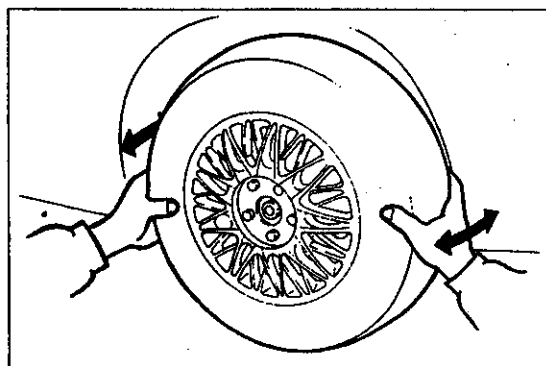
1. タイヤの前後に手を掛けて動かし、フロント・ホイール・ベアリングにがたがないことを点検する。

軸方向のがた 0.1mm以下



2. ホイールを回した時、スムーズに回転し、異音がないことを点検する。

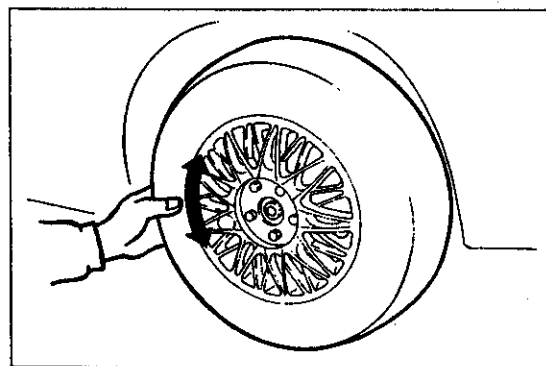
3. 必要がある場合には、フロント・ホイール・ベアリングを取外し、ベアリングなどに摩耗、損傷がないことを目視により点検する。



## リヤ・ホイール・ベアリングのがた

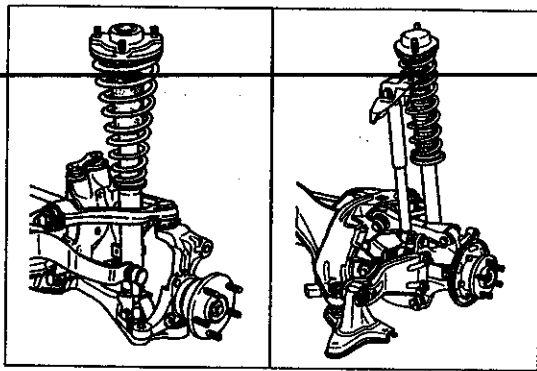
1. タイヤの前後に手を掛けて動かし、リヤ・ホイール・ベアリングにがたがないことを点検する。

軸方向のがた 0.1mm以下



2. ホイールを回した時、スムーズに回転し、異音がないことを点検する。

3. 必要がある場合には、リヤ・ホイール・ベアリングを取外し、ベアリングなどに摩耗、損傷がないことを目視により点検する。



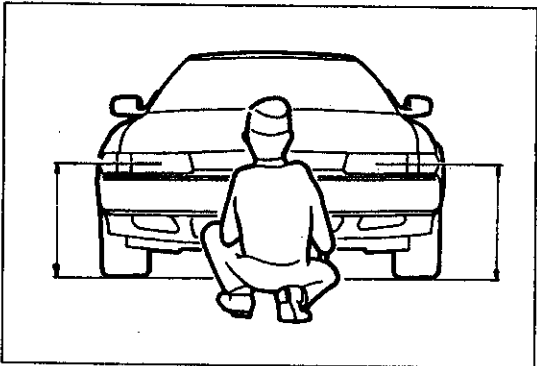
緩衝装置  
シャシばね

損傷

注意

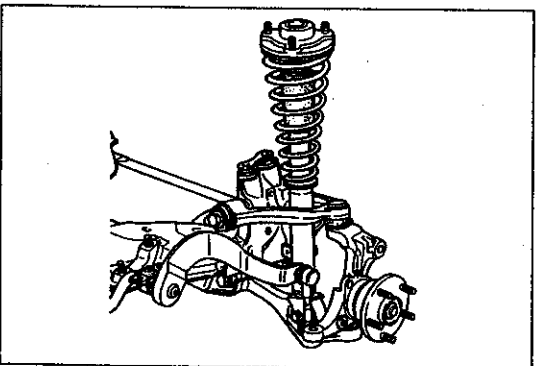
- ・フロント、リヤ共に点検する。

1. 車両をリフト・アップし、ばねに損傷、亀裂などがないことを点検する。



左右のたわみの不同

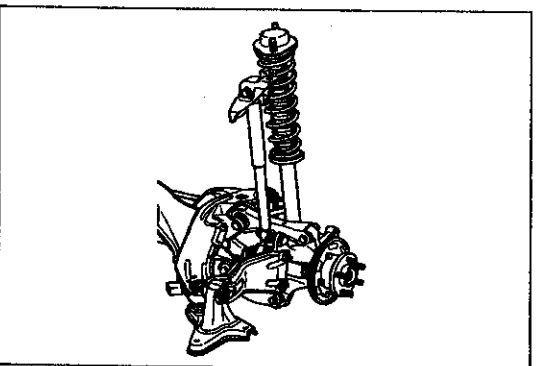
1. 車両を水平な場所に置き、前後輪のタイヤの空気圧を規定値に調整し、空車状態で車両の傾きを目視により点検する。



取付部及び連結部

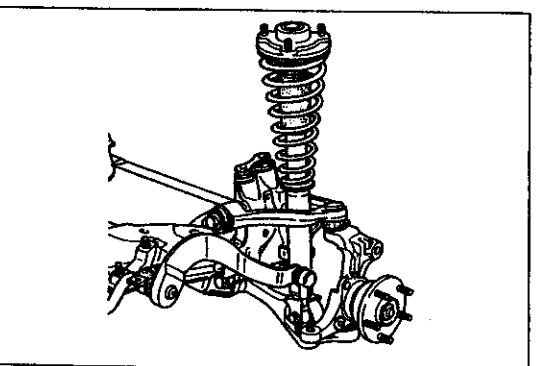
取付部の緩み及び損傷（フロント）

1. 車両をリフト・アップし、各取付部の緩み、損傷を目視または工具を使用して点検する。
  - ・コイル・スプリング
  - ・サスペンション・リンク
  - ・スタビライザ



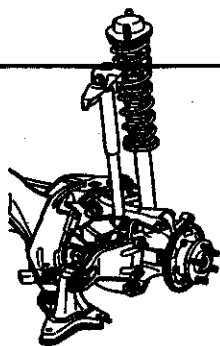
取付部の緩み及び損傷（リヤ）

1. 車両をリフト・アップし、各取付部の緩み、損傷を目視または工具を使用して点検する。
  - ・コイル・スプリング
  - ・サスペンション・リンク
  - ・スタビライザ
  - ・ショック・アブソーバ



連結部のがた

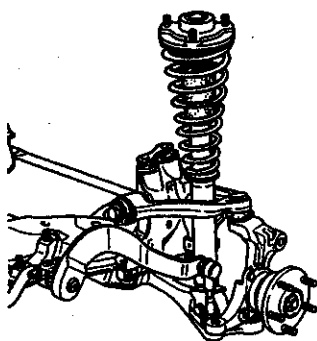
1. 車両をリフト・アップし、取付部に軸方向、または直角方向のがたがないことを手で揺するなどして点検する。



## サスペンション・アーム

## 連結部のがた及びアームの損傷

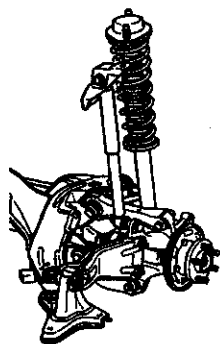
1. 車両をリフト・アップし、リンクの連結部にかたがないことを手で揺するなどして点検する。
2. リンクに損傷がないことを目視により点検する。
3. スパナなどの工具を使用してアームの取付けボルトに緩みがないことを、点検する。



## ショック・アブソーバ

## 油漏れ及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、ショック・アブソーバからの油漏れを目視により点検する。
2. ショック・アブソーバに損傷がないことを目視により点検する。



## 取付部のがた

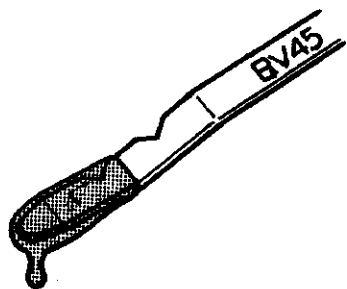
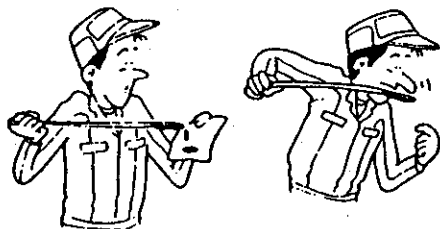
1. 車両をリフト・アップし、ショック・アブソーバの取付部にかたがないことを手で揺するなどして点検する。
2. スパナなどの工具を使い、取付部に緩みがないことを点検する。

動力伝達装置  
トランスミッション

油漏れ及び油量

注意

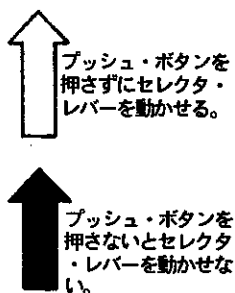
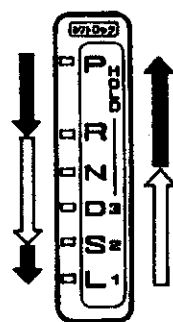
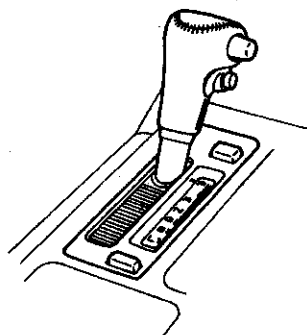
- ・車両を水平な場所に置く。
- ・フルードを上限以上注入しない。
- ・フルードが下限以下の場合は、車両を走行させない。



1. パーキング・ブレーキを確実に作動させ、輪止めをする。
2. エンジンを開始し、暖機する。(ATF温度60~70℃)
3. フット・ブレーキを踏込んだ状態で、セクタ・レバーをPレンジからLレンジまで、各レンジで数秒間放置した後、Pレンジに戻す。
4. アイドル状態で、オイル・レベル・ゲージを抜き、ナイロン・ウエスで拭取った後、再度挿入してフルードがレベル・ゲージの切り欠き間にあることを点検する。

操作機構のがた

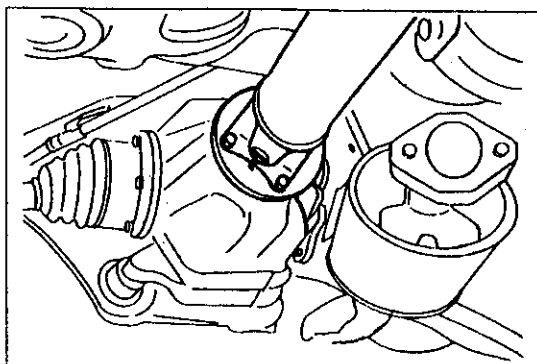
1. セクタ・レバーの曲がり、損傷を点検する。
2. Nレンジ状態で、セクタ・レバーを揺するなどして、がたがないことを点検する。
3. 走行してセクタ・レバーを操作したとき、異音がなく容易に変速できることを点検する。



4. セクタ・レバーを各レンジに容易に切換えられることを点検する。
5. セクタ・レバーを各レンジに切換えた時、レンジ・インジケータの位置と合っていることを目視により点検する。

プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフト  
連結部の緩み

1. ヨーク・フランジ取付けボルトに緩みがないかをスパナなどで点検する。
2. ユニバーサル・ジョイント付近を上下、左右に動かし、スパイダ・ジョイント部にがたがないかを点検する。



## プロペラ・シャフトの振れ

## 注意

- ・限度値外の場合は、プロペラシャフトASSYで交換する。

1. 車両をリフト・アップして、後輪の片側を固定し他方を回転させて、プロペラ・シャフトの振れを測定する。

## 振れ

前側 0.4mm以下

後側 0.6mm以下

## 自在継手部のダスト・ブーツの亀裂及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、ドライブシャフトの自在継手部のダスト・ブーツの亀裂、損傷がないことを目視により点検する。

## スプライン部のがた

1. 車両をリフト・アップし、ドライブシャフトを手で回し、スプライン部にがたがないことを点検する。

## 自在継手部のがた

1. ドライブシャフトの自在継手部を手で、上下左右に動かし、自在継手部にがたがないことを点検する。

## デファレンシャル

## 油漏れ及び油量

1. デファレンシャル周辺（ギヤ・ケース取付け部、フロントアンド サイド・オイル・シール、ドレーン アンド フィラ・プラグ部）から油漏れがないかを目視により点検する。
2. フィラ・プラグを取外し、油量がプラグ下面程度までであることを指でふれて点検する。

## 推奨項目

## デファレンシャル・オイル交換

1. ドレーン・プラグ、オイル・レベル・プラグとワッシャを取外し、オイルを抜取る。
2. 新品のワッシャとドレーン・プラグを締付ける。

締付けトルク 4.0~5.5kgm

3. オイル・レベル・プラグ取付け穴から指定オイルを注入する。

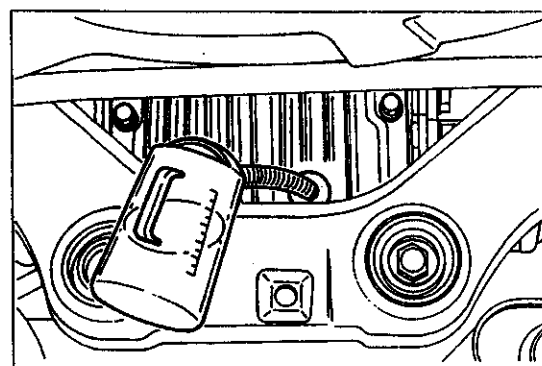
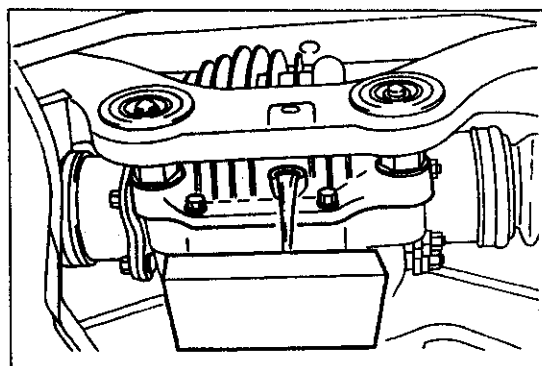
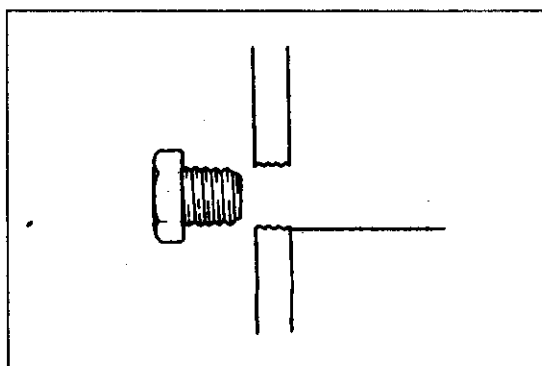
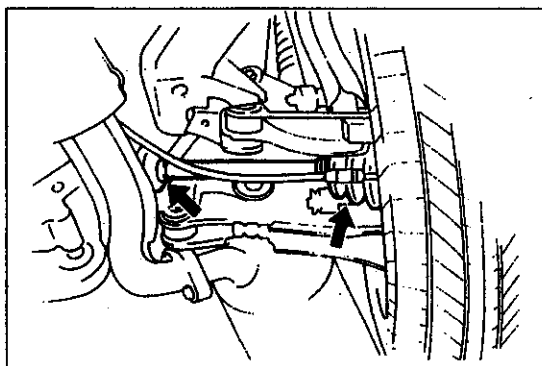
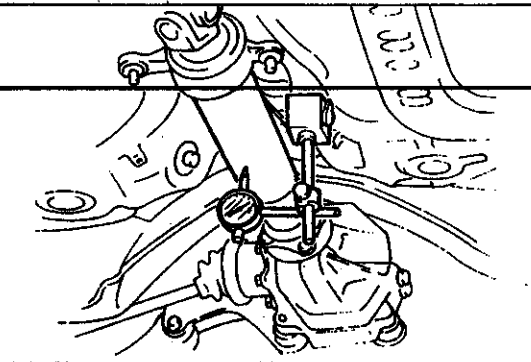
## 指定オイル

純正ロングライフ・ハイポイド・ギヤ・オイル  
(SAE90, GL-5)

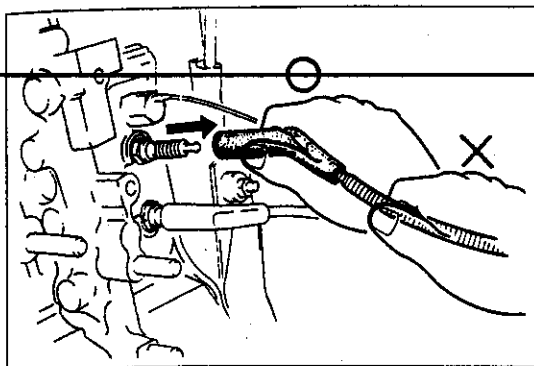
オイル量 1.3ℓ

4. オイル量を点検する。
5. 新品のワッシャとオイル・レベル・プラグを締付ける。

締付けトルク 4.0~5.5kgm







## 電気装置

### 点火装置

#### 点火プラグの状態

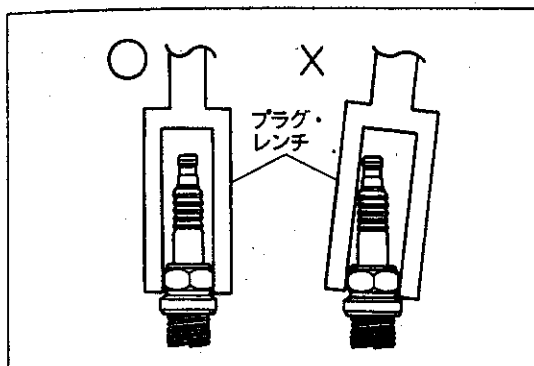
#### 注意

- ・ハイテンション・リードを引抜くときは、必ず、リード・キャップを持って引抜く。

1. ハイテンション・リードを取外す。
2. プラグ・レンチを使用してプラグを取外す。

#### 参考

- ・プラグ対辺 20.6mm



3. 次の点検を行い、不具合があれば交換する。

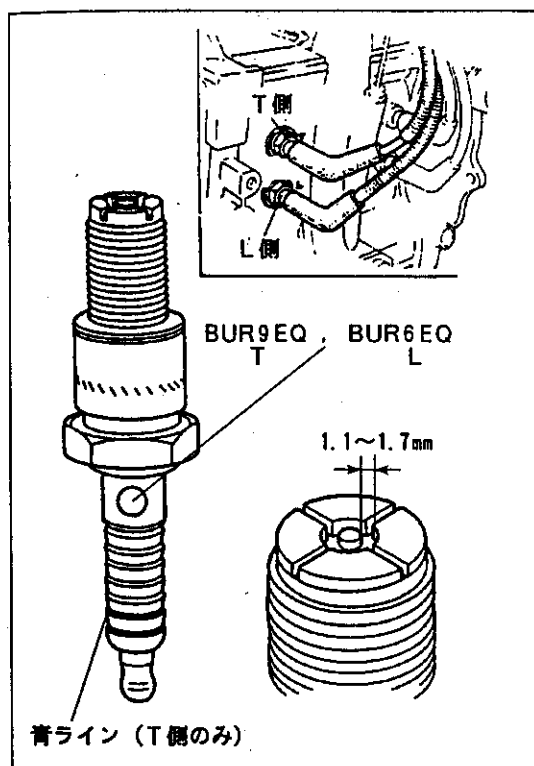
- ・絶縁体破損の有無
- ・電極の消耗状況
- ・カーボンの堆積
- ・ガスケットの損傷、破損
- ・火花部硝子の焼け具合

#### 注意

- ・プラグ・クリーナで掃除しない。

4. ワイヤ・ブラシで掃除する。
5. プラグを取付け、規定トルクで締付ける。

締付けトルク 1.3~1.8kgm



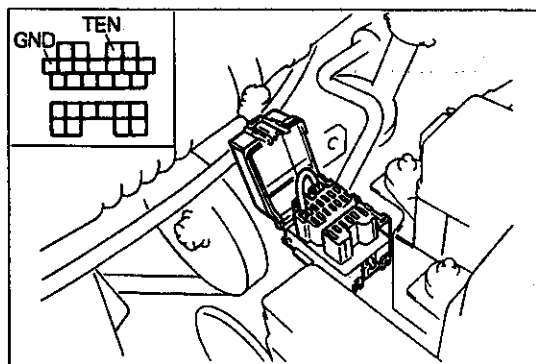
#### 点火時期

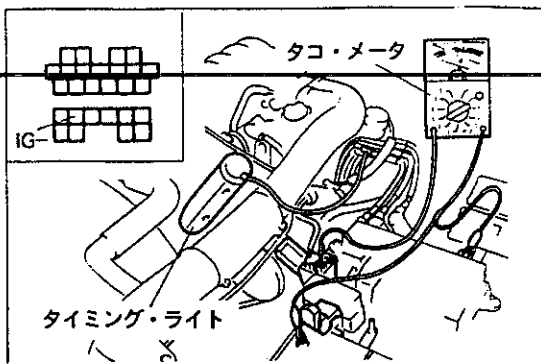
1. エンジンを暖機する。
2. すべての電気負荷をOFFにする。
3. エアコンSWをOFFにする。
4. アイドリングの状態が良好であることを確認する。

#### 注意

- ・TEN端子とGND端子を短絡する際、端子を間違えない様に気を付けること。(間違えて+B端子をアースするとメイン・フューズ・ボックス内のTURNフューズ(10A)が溶断する。)

5. ダイアグノシス・コネクタのTEN端子とGND端子を短絡する。





## 注意

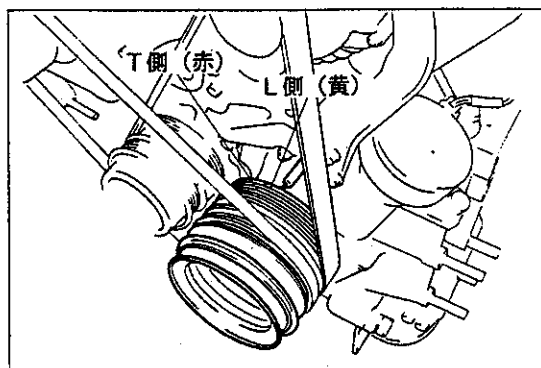
- ・タイミング・ライトは、フロント側のハイテンション・リードに取付けること。
- ・タイミング・ライトによっては、点火時期を確認できないものがあるので注意すること。

6. タコ・メータ、タイミング・ライトを取付ける。

7. タイミング・ライトで点火時期を点検する。

## 標準値

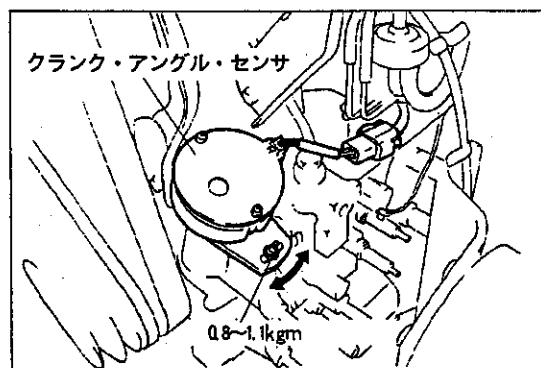
	13B-REW	20B-REW
T側 (赤マーク)	BTDC-20°/750rpm	BTDC-20°/720rpm
L側 (黄マーク)	BTDC-5°/750rpm	BTDC-5°/720rpm



## 注意

- ・クランク・アングル・センサを取外した場合、正常に取付けてないと、点火時期の調整ができない。

8. 点火時期が狂っている場合、固定ボルトをゆるめクランク・アングル・センサ本体を回して調整する。調整後は、固定ボルトを封印テープで封印する。



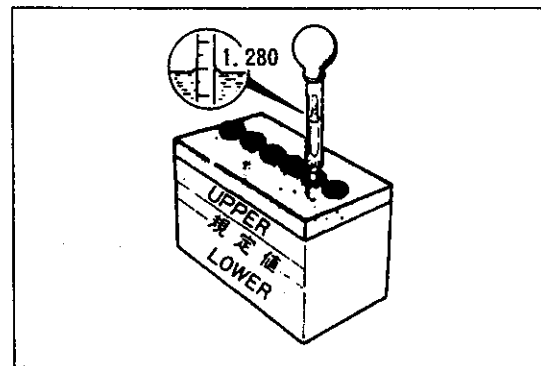
## バッテリー

## 液量

1. 電解液が規定レベル (アッパ・レベルとロア・レベル間) にあるか点検する。
2. 不足している場合は、液口栓を外し蒸留水を規定レベルまで補給する。

## 注意

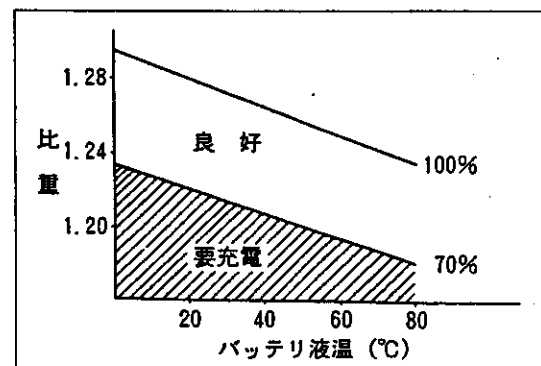
- ・バッテリー上面がバッテリー液で汚れている場合は漏電の原因になるので水で十分洗浄する。

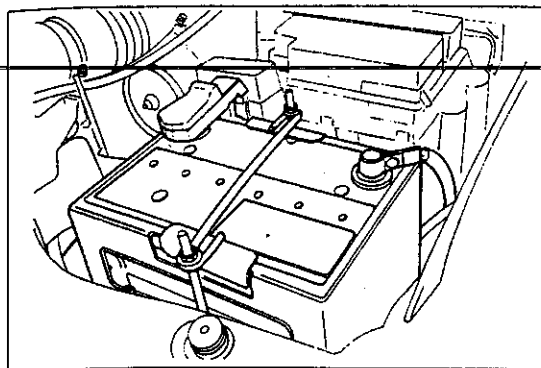


3. 液口栓の電気穴につまりがないことを目視により点検する。つまりがある場合は、針のようなもので掃除する。

## 液の比重

1. 比重計を使用して比重を測定する。  
標準値 1.27~1.29 (20°C)
2. 標準値にない場合、充電する。





#### ターミナル部の接続状態

1. ターミナル部の緩み、腐食、接続状態が不良でないことを目視により点検する。

#### 電気配線

##### 接続部の緩み及び損傷

1. エンジン・ルーム内の電気配線の接続部に緩みがないことを点検する。
2. 電気配線に損傷がないことを、またクランプに緩みがないことを目視により点検する。

#### 原動機

##### 本体

##### かかり具合及び異音

1. エンジン始動時に異音がないことを点検する。
2. エンジンが速やかに始動し、円滑に回転することを点検する。

#### 低速及び加速の状態

1. エンジンを暖機する。
2. すべての電気負荷をOFFにする。
3. エアコンSWをOFFにする。
4. アイドリングの状態が良好であることを確認する。

5. タコ・メータを取付ける。

#### 参考

- ・電動ファンが作動している場合は、停止するまで待つ。

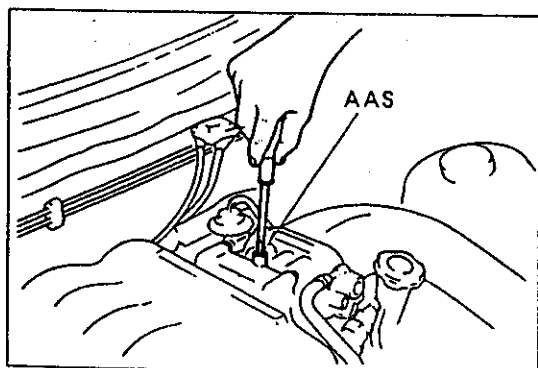
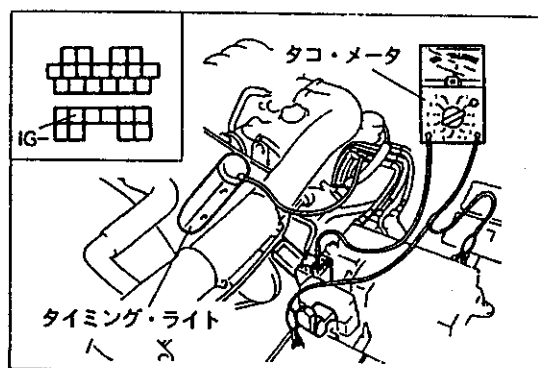
6. タコ・メータを使用してアイドル回転数を点検する。

##### 標準値(TEN端子開放時)

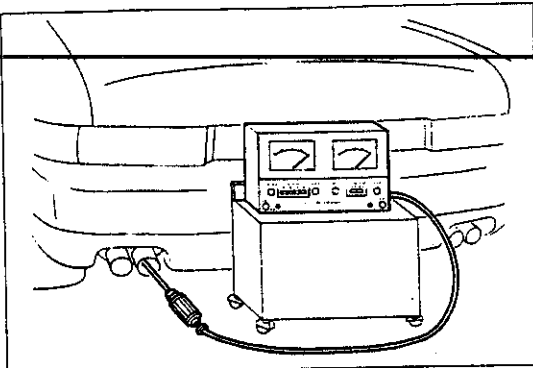
13B-REW	730~780rpm (Pレンジ)
20B-REW	700~750rpm (Pレンジ)

#### 注意

- ・アイドル回転数はISC (アイドル・スピード・コントロール) システムの採用により常に一定に保たれるため、基本的に調整は不要である。
- ・ただし何らかの原因でアイドル回転数が標準値内にない場合はスロットル・ボデーのAASを回して、アイドル回転数を調整する。



## 排気の状態



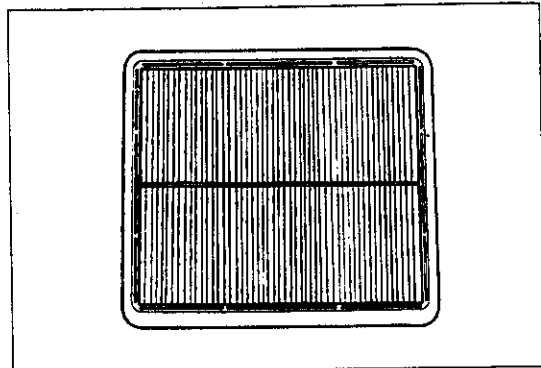
## 参考

・20B-REWは内側のテール・パイプにテスト棒を挿入する。

1. CO、HCテストをセットし、約3分間アイドル放置後の、CO、HC濃度を点検する。

標準値 CO濃度 0.3%以下  
HC濃度 90ppm以下

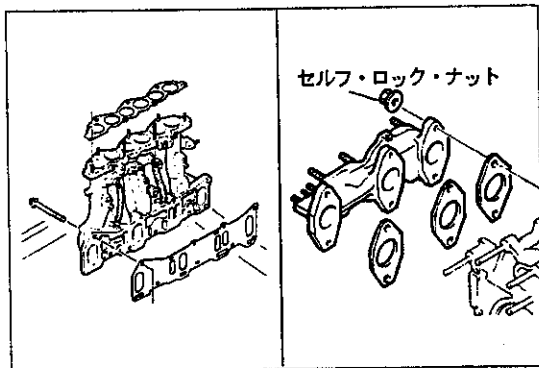
## エア・クリーナ・エレメントの状態



1. エア・クリーナ・エレメントを外し、損傷がないことを、また、汚れによる詰まりがないことを目視により点検する。汚れている場合は交換する。

## シリンダ・ヘッド及びマニホールド各部の締付状態

1. INマニホールド及びEXマニホールド各部の緩みがないことを確認する。



## 締付けトルク

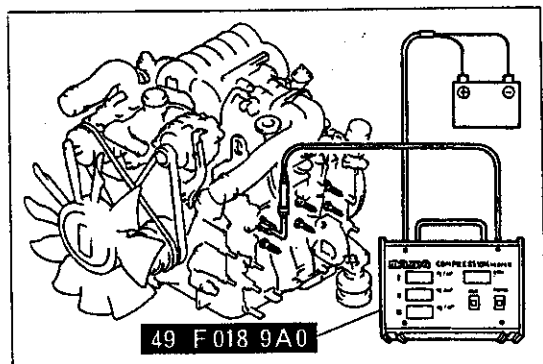
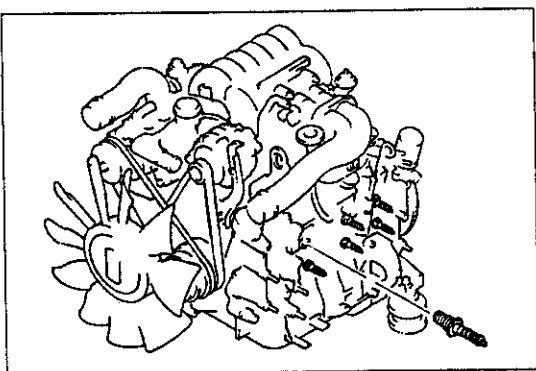
INマニホールド 1.9~2.6kgm  
EXマニホールド 13B-REW 4.4~5.3kgm  
20B-REW 6.6~8.0kgm

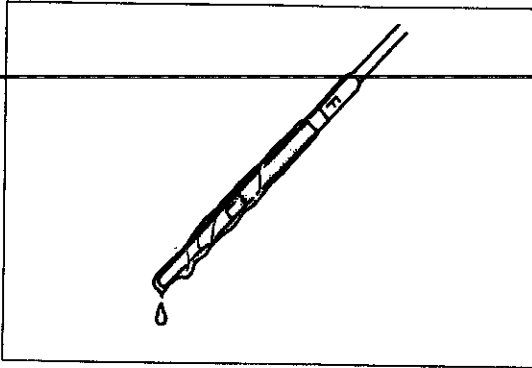
## 圧縮圧力

1. エンジンを十分に暖機する。
2. 暖機後停止し、約10分間放置する。
3. フロントのT側プラグを外す。
4. クランク・アングル・センサのコネクタを切離す。
5. SSTをフロント・ロータ・ハウジングのT側プラグ・ホールとバッテリーに接続する。
6. アクセル・ペダルを一杯に踏み込み、5~10秒間クランキングする。
7. 圧縮圧力と回転数を読取る。
8. 他のロータ・ハウジングについても同様に行う。

## 圧縮圧力

エンジン型式		13B-REW	20B-REW
項目			
圧縮圧力 (kg/cm <sup>2</sup> -rpm)	標準値	8.5~250	←
	限度値	7.0~250	←
	各ロータの 燃焼室間差	1.5以内 (kg/cm <sup>2</sup> )	←



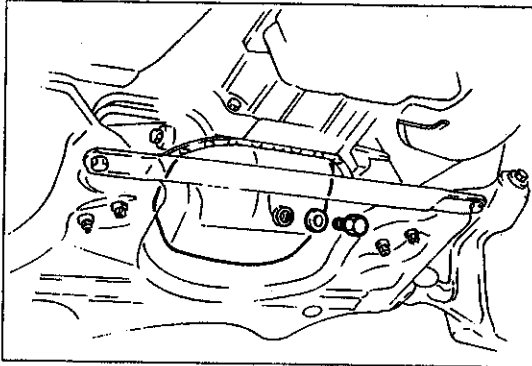


### 潤滑装置

#### 油の汚れ及び量

1. 車両を水平な場所に置き、エンジンを停止させ、オイル・レベル・ゲージでオイルの汚れがないか目視により点検する。
2. 油量が標準値にあるか点検する。

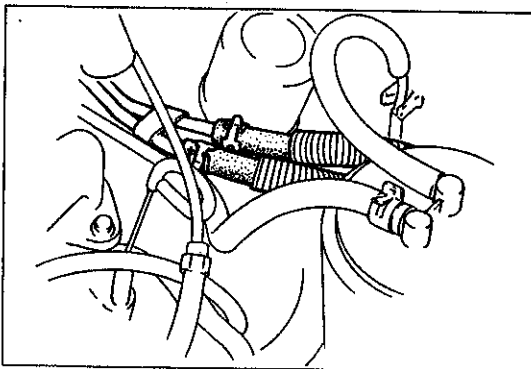
標準値 オイル・レベル・ゲージのFとL間



### 油漏れ

1. 車両をリフト・アップし、エンジン各部のオイル漏れがないことを目視により点検する。

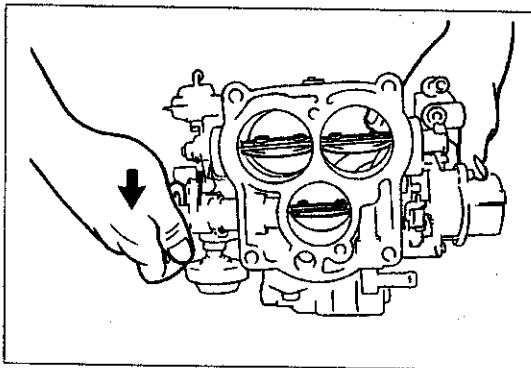
- ・オイル・パン
- ・オイル・プレッシャ・スイッチ
- ・オイル・ドレーン・プラグ
- ・ターボチャージャへのオイル・パイプ
- ・オイル・リターン・ホース
- ・各ハウジング合せ面



### 燃料装置

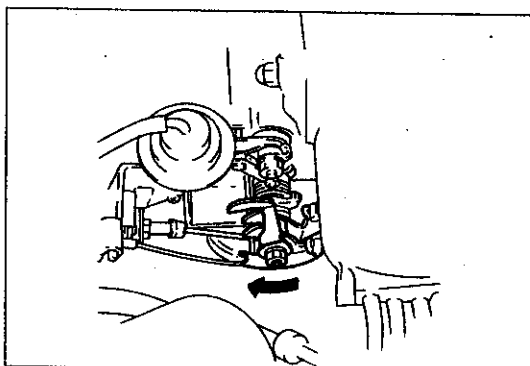
#### 燃料漏れ

1. 車両をリフト・アップし、燃料漏れがないことを目視により点検する。
2. 燃料ホースに損傷、劣化がないことを目視により点検する。
3. 各ホース・クランプの緩みを目視により点検する。
4. フューエル・タンク・キャップのシール部の劣化、亀裂、損傷を目視により点検する。



### スロットル・ボデーのリンク機構の状態

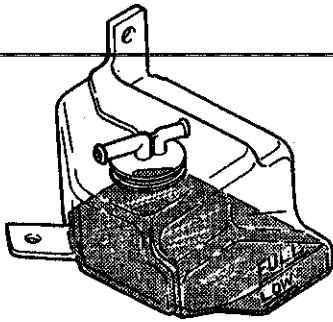
1. スロットル・ボデー各リンクの取付け状態が不良でないことを目視により点検する。
2. 各リンクの結合部に摩耗、がたがないことを目視、または、手で作動方向に動かし点検する。
3. リンク機構が円滑に動くことを、アクセル・ペダルの操作により点検する。



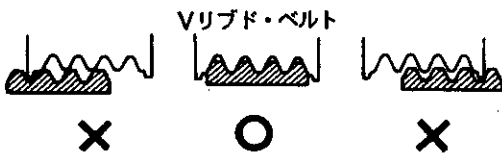
### スロットル・バルブ及びチョーク・バルブの状態

1. スロットル・バルブ・シャフトにがたがないことを、シャフトを指で押して点検する。
2. スロットル・バルブが全開、全閉することをスロットル・レバーを手で動かし点検する。

### 冷却装置 水量

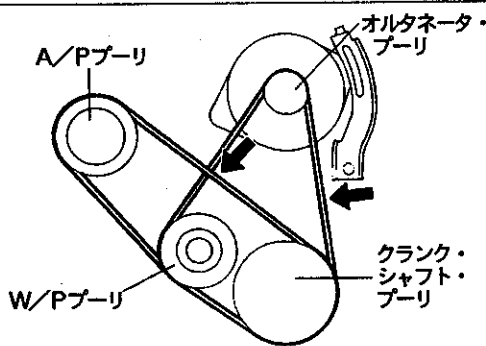


1. サブ・タンクの冷却水量が、サブ・タンクFULLとLOW間にあることを目視により点検する。



### ファン・ベルトの緩み及び損傷

1. ベルトとプーリ接触面の摩耗、損傷、破損またはプーリの損傷がないことを目視点検する。

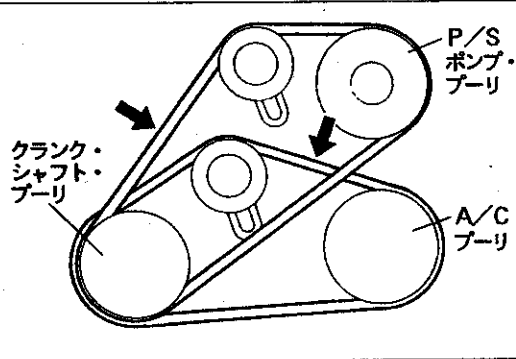


2. プーリ間中央のベルト背面に10kgの押力を加え、たわみ量を測定する。

	新品取付け時 (mm)	点検時 (mm)
オルタネータ用	6～8	7～9
P/S用	11～13	14～16
A/C用	6～8	8～9
エア・ポンプ用	10～11.5	11.5～12.5

### 注意

- ・ベルトのたわみ量測定は、定められたプーリ間で測定する。
- ・新品ベルトに交換する時は、「新品取付け時」の標準値の中央値に調整する。



### 参考

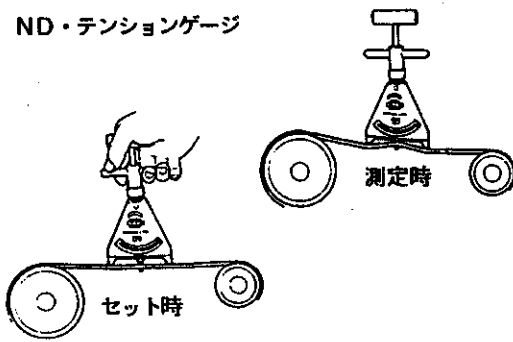
#### ・NDテンション・ゲージ使用時の張力標準値

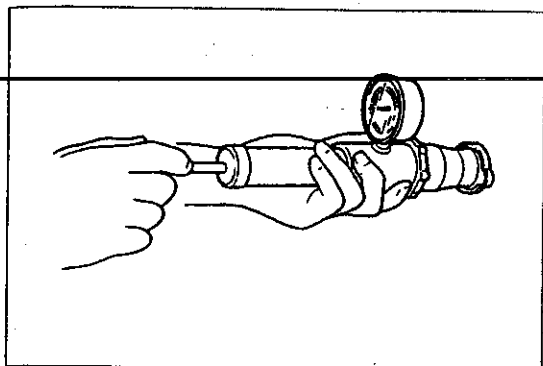
	新品取付け時 (kg)	点検時 (kg)
オルタネータ用	13B-REW: 60～80 20B-REW: 80～90	13B-REW: 50～70 20B-REW: 60～70
P/S用	40～50	29～36
A/C用	40～55	29～37
エア・ポンプ用	45～55	35～45

※ベルトの張力はどのプーリ間で測定してもよい。

3. 標準値外の場合は調整する。

### ND・テンションゲージ



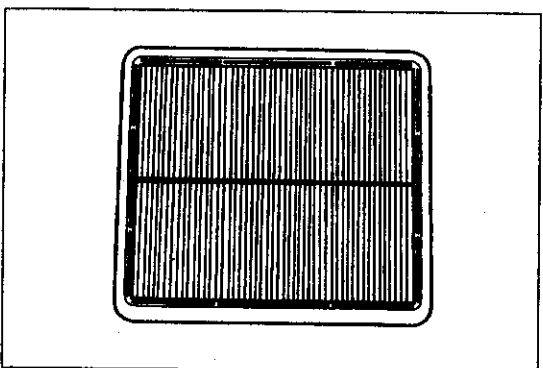


#### ラジエータ・キャップの機能

1. ラジエータ・キャップを取外し、ラジエータ・キャップ・テストにより、キャップの開弁圧が標準値にあることを測定する。

標準値 開弁圧 1.15～1.45kg/cm<sup>2</sup>

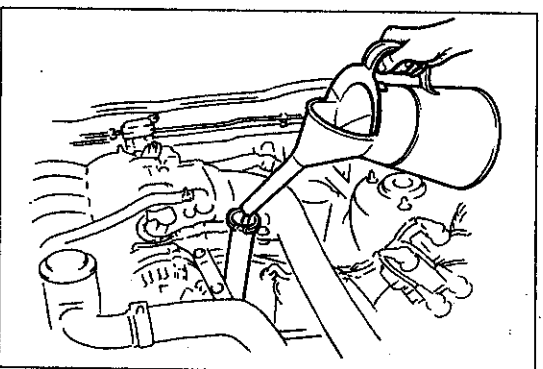
2. ラジエータ・キャップのバルブ・シート面に汚れ、損傷がないことを目視により点検する。



#### 推奨項目

##### エア・クリーナ・エレメント交換

1. エア・クリーナ・カバーを取外し、ケース内の汚れ、ほこりを清掃した後、新品のエア・クリーナ・エレメントと交換する。

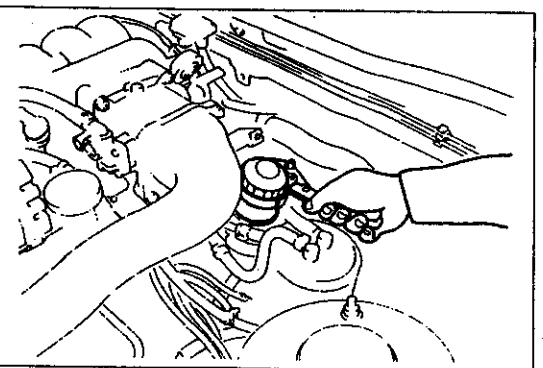


#### エンジン・オイル交換

1. 車両をリフト・アップし、オイル・パンのドレーン・プラグを取外し、オイルを抜き取る。
2. ドレーン・プラグを規定トルクで締付ける。

締付けトルク 3.0～4.2kgm

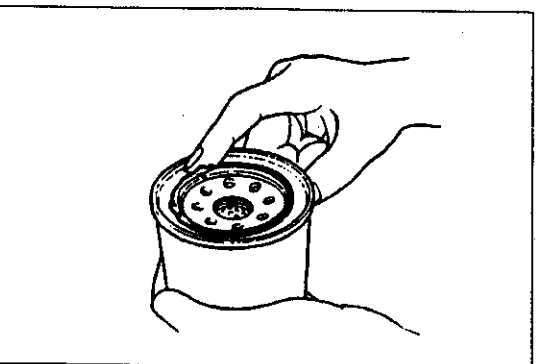
3. オイル・フィラ・キャップを外し、エンジン・オイルをオイル・レベル・ゲージの規定レベルまで注入する。
4. ドレーン・プラグ、オイル・フィラ・キャップから漏れがないか目視により点検する。



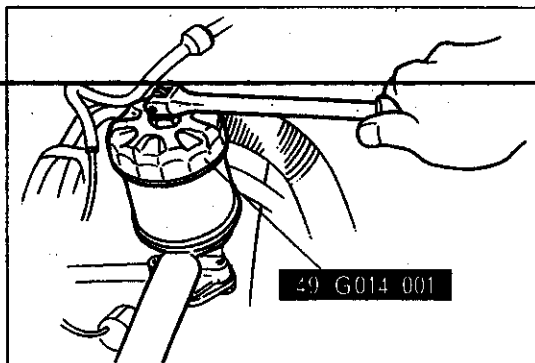
#### オイル・フィルタ交換

〈日本電装製〉

1. オイル・フィルタ・レンチ（市販品）を使用して、オイル・フィルタを取外す。
2. フィルタ取付け面を清掃する。

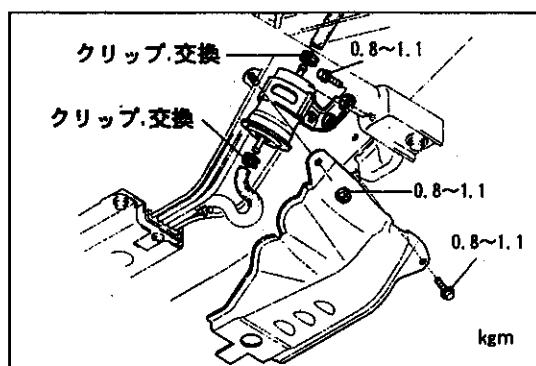


3. 新品のオイル・フィルタのOリングに少量のエンジン・オイルを塗布する。
4. オイル・フィルタのOリングが、シリンダ・ブロックに、かかる接触するまで手でねじ込み、その後さらに $\frac{1}{4}$ 回転手でねじ込む。
5. エンジンを開始し、オイル・フィルタ取付け部よりオイル漏れがないことを確認する。
6. オイル量を確認し、不足している場合は補充する。



## 〈東京沪器製〉

1. SSTを使用して、オイル・フィルタを取外す。
2. フィルタ取付け面を清掃する。
3. 新品のオイル・フィルタのOリングに少量のエンジン・オイルを塗布する。
4. オイル・フィルタのOリングが、シリンダ・ブロックに、か  
るく接触するまで手でねじ込む。
5. 4項の位置からSSTを使用して、1 ½回転締付ける。
6. エンジンを始動し、オイル・フィルタ取付け部よりオイル漏  
れがないことを確認する。
7. オイル量を確認し、不足している場合は補充する。

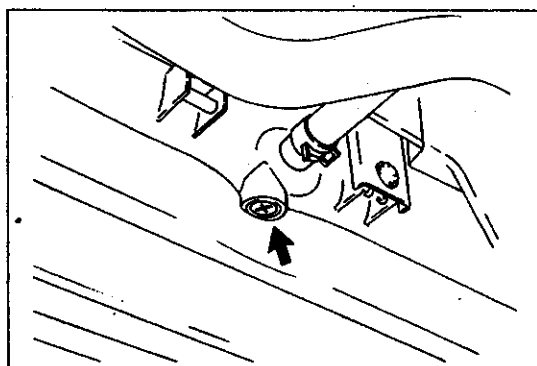


## 燃料フィルタ交換

1. 燃料ホースを外し、フューエル・フィルタを交換する。
2. 接続部より燃料の漏れがないか目視により点検する。

## 燃料ホース交換

1. 次に示す燃料ホースを交換する。
  - ・フューエル・メイン・ホース
  - ・フューエル・リターン・ホース
  - ・ブリーザ・ホース
  - ・フィラ・ホース

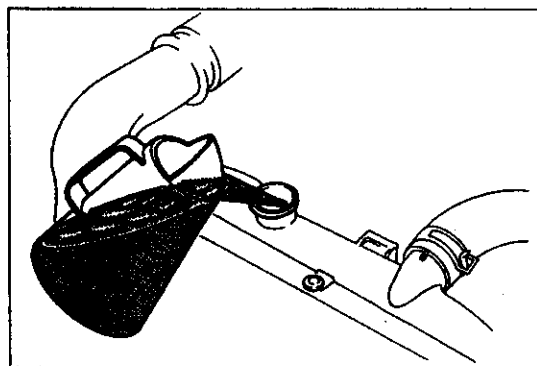


## 冷却水交換

1. ラジエータのドレーン・プラグ、クーラント・フィラ・キャッ  
プを外し、冷却水を抜き取る。

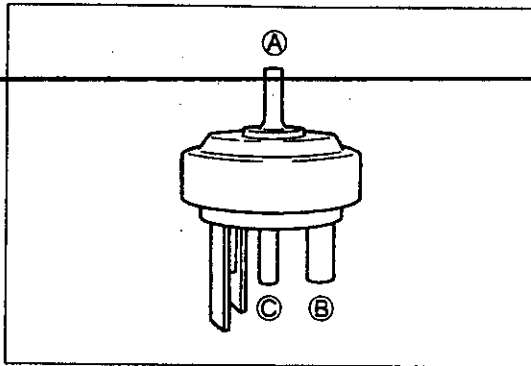
## 注意

- ・サブ・タンク内の冷却水も抜き取る。



2. ラジエータのドレーン・プラグを取付ける。
3. 注入口よりロング・ライフ・クーラントを注入後、水を補給  
する。
4. エンジンを暖機し、ラジエータ内のエア抜きをし水を補給す  
る。





ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガス等の発散防止装置

ブローバイ・ガス還元装置

メタリング・バルブ（パージ・バルブ）の状態

1. ③部より吸い込んだ時、通気がないことを確認する。
2. ①部にバキューム・ポンプを接続し、負圧100mmHgを加えたとき、②～④間に通気があることを確認する。

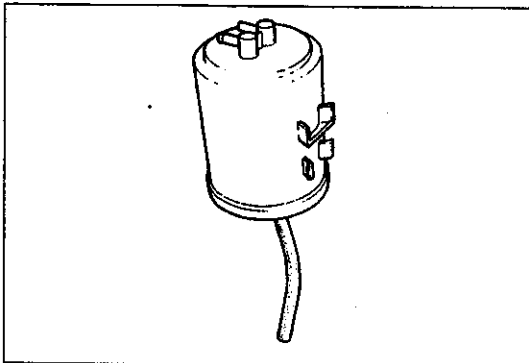
配管の損傷

1. ホース、パイプに劣化・損傷がないことを目視により点検する。

燃料蒸発ガス排出抑止装置

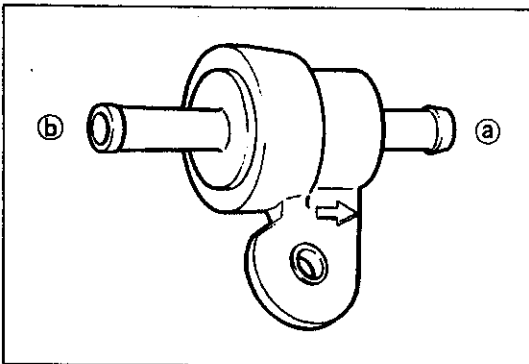
配管等の損傷

1. 車両をリフト・アップし、ホース、パイプなどに損傷がないことを目視により点検する。



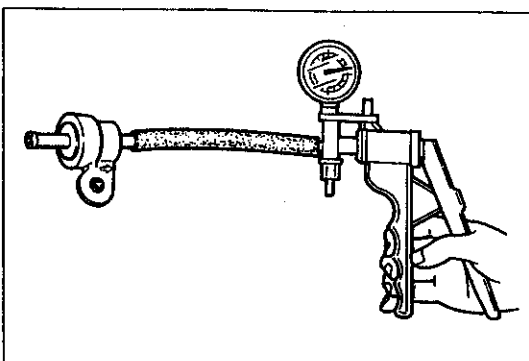
チャコール・キャニスタの詰まり及び損傷

1. 目視にて、外観の亀裂・損傷について点検し、不具合があれば交換する。



チェック・バルブの機能

1. フューエル・チェック・バルブの①ポートから軽く息を吹き込み通気のないことを確認する。

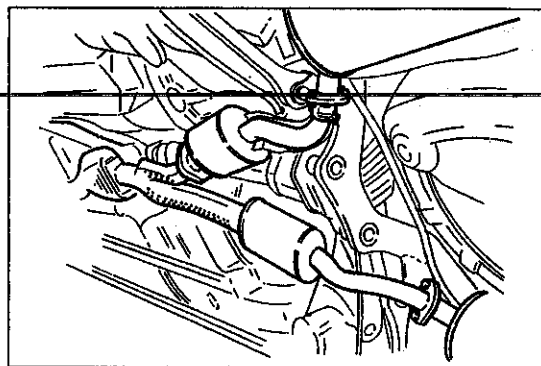


2. フューエル・チェック・バルブの①ポートにバキューム・ポンプを接続し、約7.35～36.8mmHgの負圧をかけたとき、フューエル・チェック・バルブに通気があり、負圧が0mmHgになることを確認する。
3. フューエル・チェック・バルブの②ポートにバキューム・ポンプを接続し、約22.1～44.1mmHgの負圧をかけたときフューエル・チェック・バルブに通気のあることを確認する。

## 一酸化炭素等発散防止装置

触媒反応方式等排出ガス減少装置の取付けの緩み及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、触媒などの排出ガス減少装置の取付けに緩みがないことを点検する。
2. 損傷がないことを目視により点検する。
3. 触媒過熱警報装置取付けに緩みがないことを点検する。



## 二次空気供給装置の機能

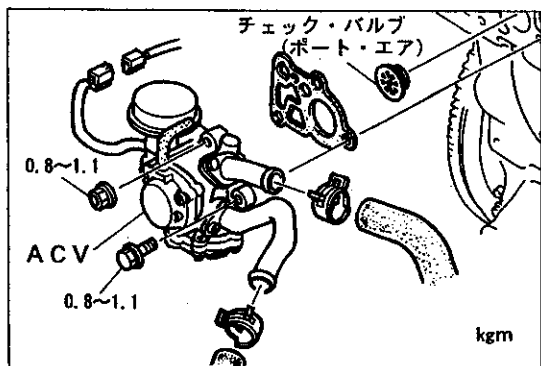
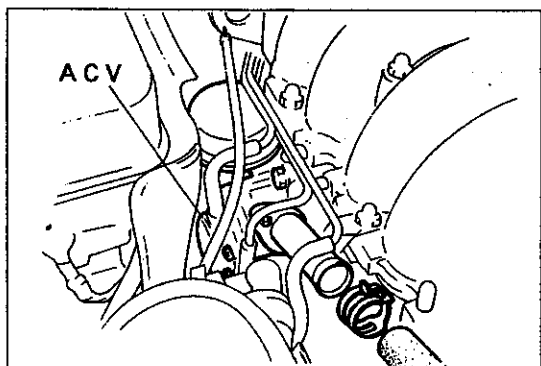
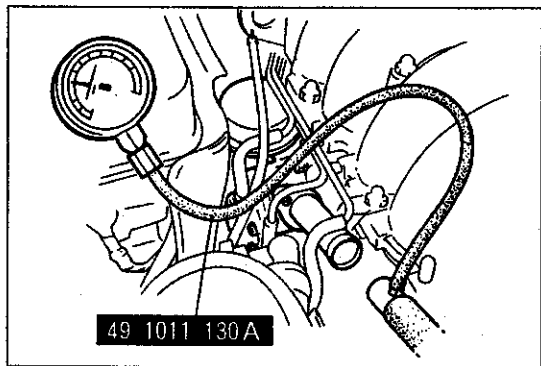
&lt;エア・ポンプ&gt;

1. エア・ポンプ
  - (1) エア・ポンプとエア・コントロール・バルブ間のホースをエア・コントロール・バルブ側で外し SST (エア・ポンプ・ゲージ) を取付ける。
  - (2) アイドリング状態 (Pレンジ、無負荷) での圧力を測定する。

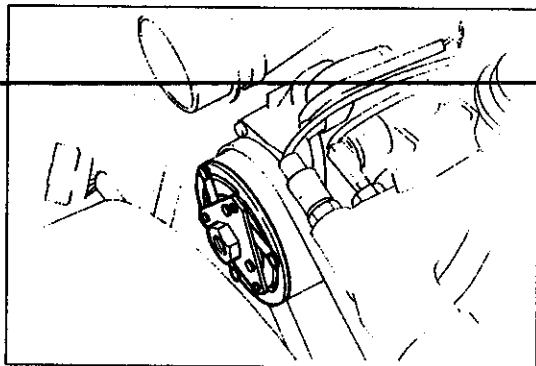
標準値

13B-REW	0.1kg/cm <sup>2</sup> 以上
20B-REW	0.3kg/cm <sup>2</sup> 以上

- (3) 標準値外の場合、エア・ポンプを交換する。
2. チェック・バルブ (ポート・エア)
  - (1) エア・コントロール・バルブとエア・ポンプ間のエア・ホースをエア・コントロール・バルブ側で外す。
  - (2) アイドリング状態で、ホースより排気ガスの吐出がないことを確認する。

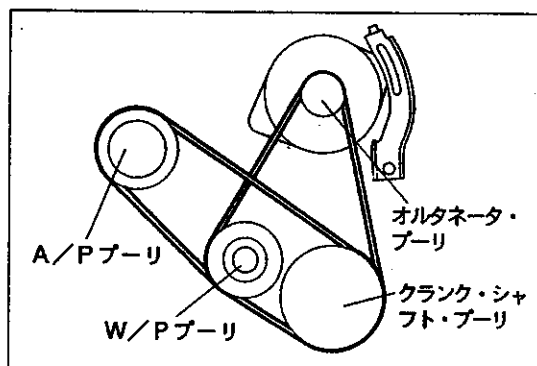


- (3) 吐出がある場合、チェック・バルブ (ポート・エア) を交換する。



### 3. 電磁クラッチ (20B-REWのみ)

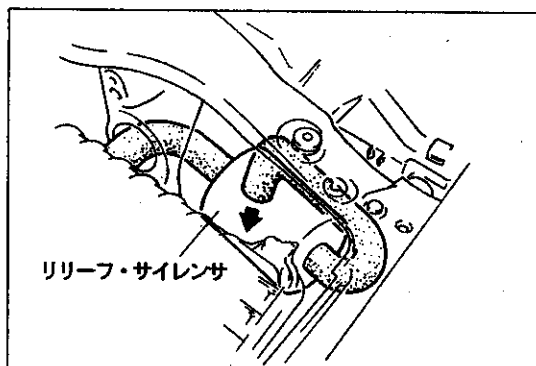
- (1) IGスイッチONの状態、ECUの5B (白黒) 端子を短絡したとき、電磁クラッチの作動音を確認する。
- (2) 不具合がある場合は、エア・ポンプ・コントロール・リレーを点検する。  
(参照: Fセクション)



### 4. ドライブ・ベルト

- (1) ベルトとプーリ接触面の摩耗、損傷、破損またはプーリの傷つきがないか目視点検する。不具合があれば交換する。
- (2) ドライブ・ベルトにテンション・ゲージを取付けて、ベルトの張力を測定する。

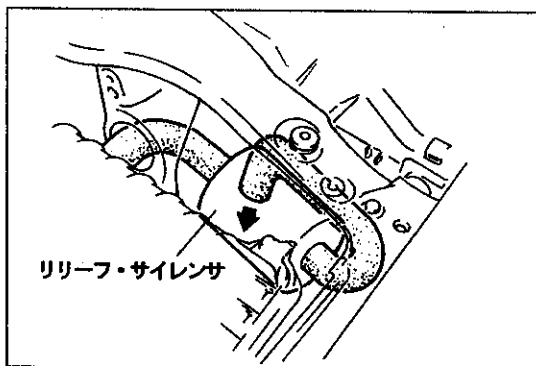
標準値	新品時	45~55kg
	点検時	35~45kg



### 〈エア・コントロール・バルブ〉

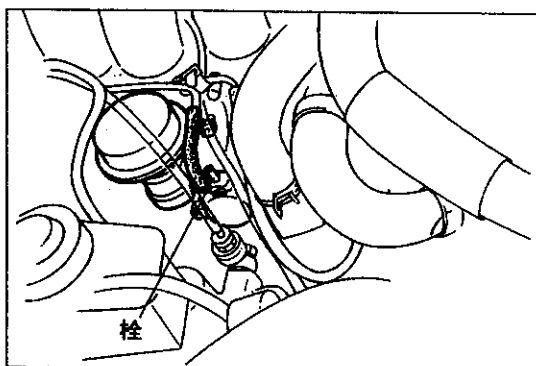
#### 1. エア・リリーフ・バルブ

- (1) リリーフ・エアの吐出口に手をあてる。
- (2) アイドリング状態で、エアの吐出がないことを確認する。

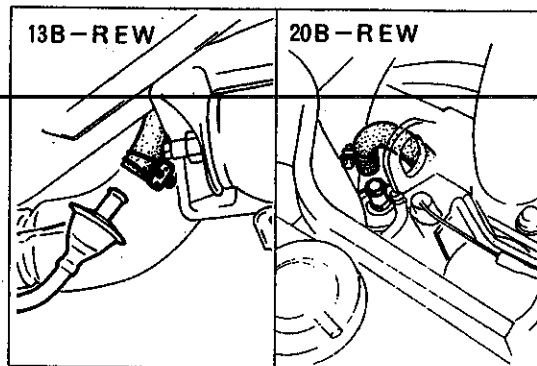


#### 2. ポート・エア・バルブ

- (1) リリーフ・エアの吐出口に手をあてる。

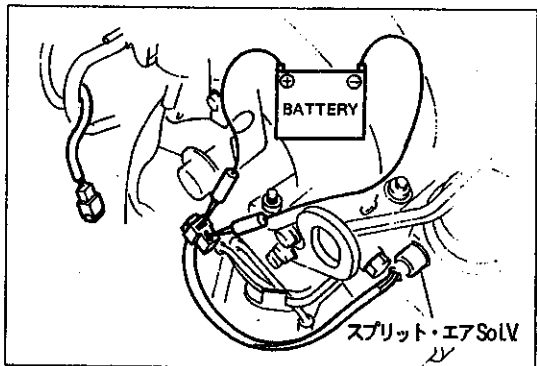


- (2) アイドリング状態で、ポート・エア・バルブ用バキューム・ホースをエア・コントロール・バルブ側で外したとき吐出口よりエアの吐出があればポート・エア・バルブは正常である。



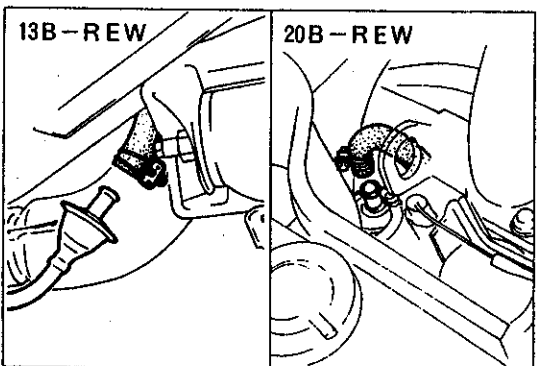
### 3. スプリット・エア Sol. V.

- (1) インレット・マニホールドとスプリット・エア・パイプ間のエア・ホースを、スプリット・エア・パイプ側で外す。



- (2) スプリット・エア Sol. V. のコネクタを外し、Sol. V. 側の端子にバッテリー電圧を印加する。

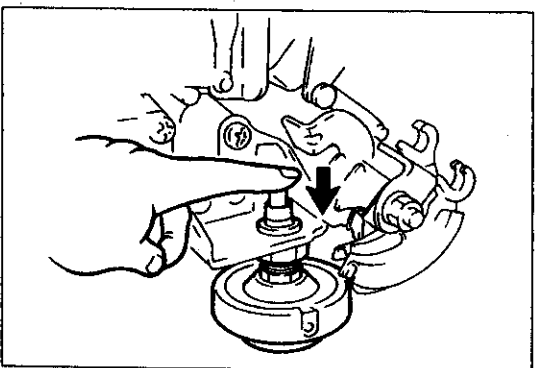
- (3) アイドリング状態で、ホースよりエアの吐出があることを確認する。



### 4. チェック・バルブ (スプリット・エア)

- (1) インレット・マニホールドとスプリット・エア・パイプ間のエア・ホースを、スプリット・エア・パイプ側で外す。

- (2) エンジン回転数を約2000rpmにしたとき、スプリット・エア・パイプより排気ガスの吐出がないことを確認する。



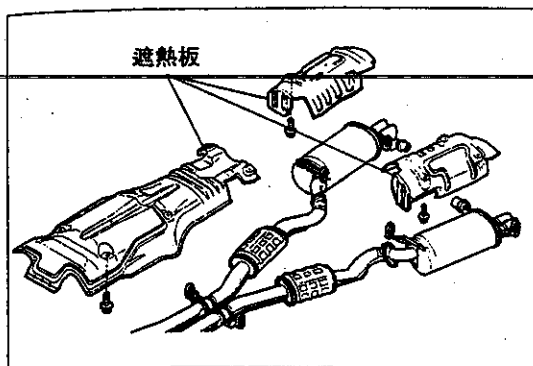
### 減速時排気ガス減少装置の機能

#### 〈ダッシュ・ポット〉

1. ダッシュ・ポットのロッドを指で押したとき抵抗感があり、指を離したとき瞬時にもどることを確認する。

### 配管の損傷及び取付状態

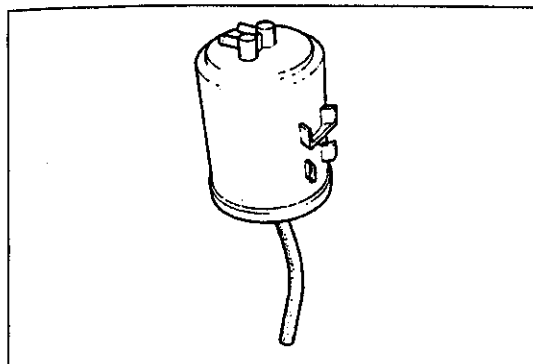
1. 一酸化炭素等発散防止装置のホース、パイプに損傷、外れがないか目視により点検する。



### 熱害防止装置

#### 遮熱板の取付けの緩み及び損傷

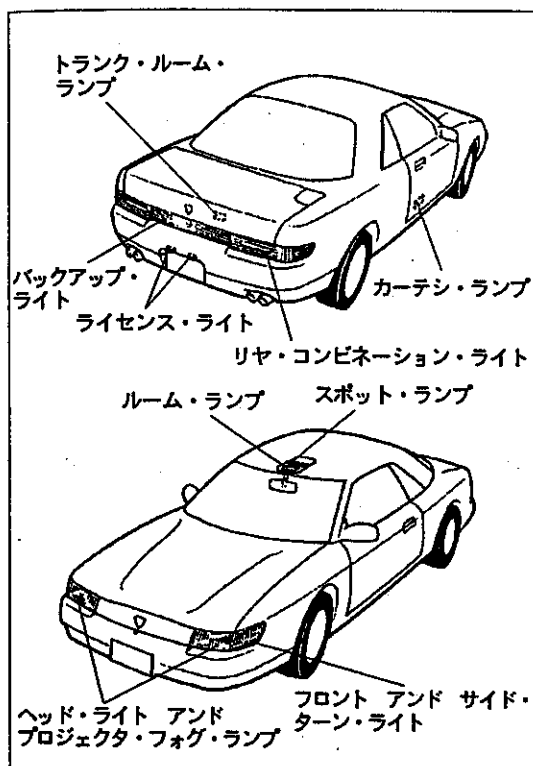
1. 車両をリフト・アップし、遮熱板に取付けの緩み、損傷がないことを点検する。



### 推奨項目

#### チャコール・キャニスタ交換

1. 接続ホースを取外し、チャコール・キャニスタを交換する。



### 附属装置

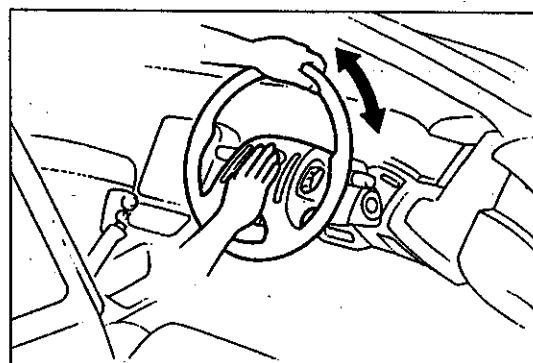
#### 灯火装置及び方向指示器

##### 作用

1. 前照灯、制動灯、尾灯などを作用させ、点灯または点滅具合が不良でないことを目視により点検する。
2. 前照灯の明るさや照射方向に異常がないことを目視により点検する。

##### 点滅具合、汚れ及び損傷

1. 方向指示器を左右に作動させ、毎分60～119回の一定の周期で点滅することを確認する。
2. 前照灯、制動灯、尾灯、方向指示器などのレンズに変色、損傷がないことを目視により点検する。
3. 前照灯のハイ・ビームを点灯中、メータ内のハイ・ビーム・インジケータ・ランプが点灯することを確認する。

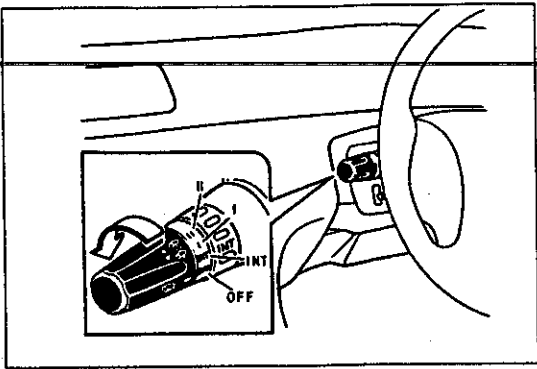


### 警告器、窓拭器、洗浄液噴射装置、デフロスタ及び施錠装置

##### 作用

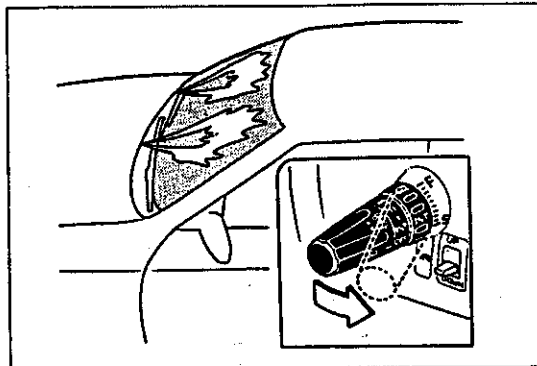
#### 〈警告器（ホーン）〉

1. ステアリング・ホイールを回しながら、ホーンボタンのどの位置を押しても鳴ることを点検する。
2. 音量・音質が不良でないか点検する。



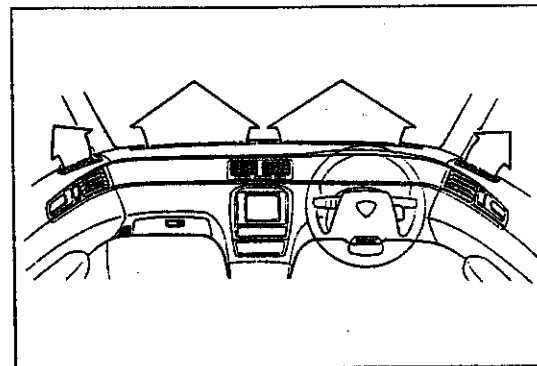
#### 〈窓拭器（ワイパ）〉

1. IGスイッチをONにしてワイパ・スイッチをIにした時、ワイパが低速で作動し、IIにした時、高速で作動することを点検する。
2. INTの位置にした時、間欠作動することを確認する。
3. ワイパを作動させた時、そのぬぐい状態が良好であることを確認する。
4. ワイパ・スイッチをOFFにした時、自動的に停止位置に停止することを確認する。



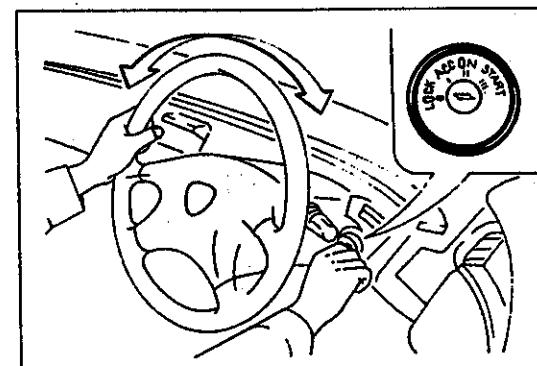
#### 〈洗浄液噴射装置（ウインド・ウォッシャ）〉

1. IGスイッチをONにしてウォッシャを噴射させ、向き及び高さを点検する。
2. ウォッシャを作動させた時、ウォッシャ液が噴射すると共にワイパが1～2回作動することを確認する。



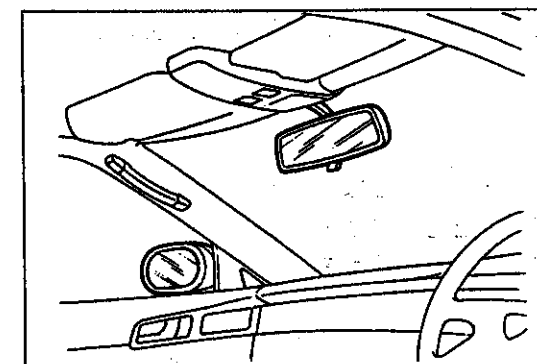
#### 〈デフロスタ〉

1. デフロスタをエンジン暖機後、作動させ（ファンスイッチをONにし、吹出し口切換レバーをDEFにする）、全面ガラスに向けて温風が吹き出すことを手の感触により点検する。



#### 〈施錠装置（ステアリング・ロック）〉

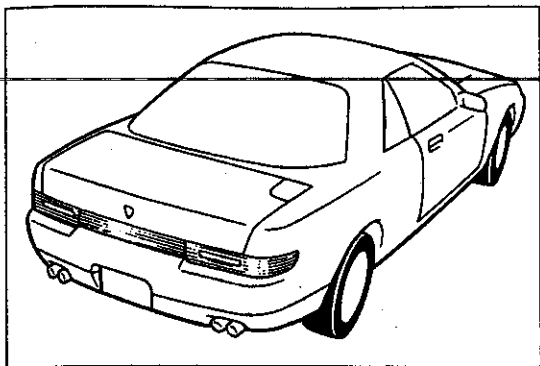
1. エンジン・キーを抜いた状態でステアリング・ロックが確実に作動することを、ハンドルを動かして点検する。



#### 後写鏡及び反射鏡

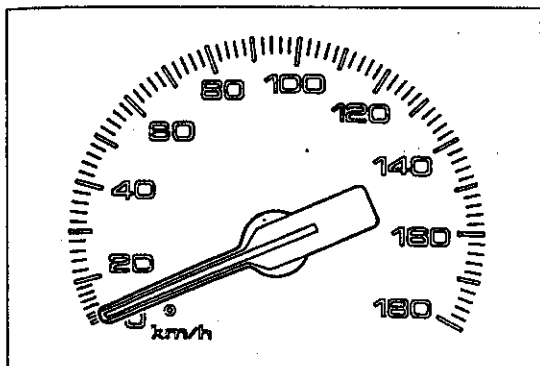
##### 写影の状態

1. インナ及びアウト・ミラーにくもり、ひずみ、破損がなく取り付けにがたがないことを確認する。
2. 運転席から車の後方の状況が確認できることを点検する。



反射器及び自動車登録番号標又は車両番号標  
汚れ及び損傷、取付状態

1. 反射器（車幅、側片、後部）に汚れ、損傷がないか目視により点検する。
2. 登録番号標または車両番号標に汚れ、損傷がないか、確実に取付けられていることを点検する。



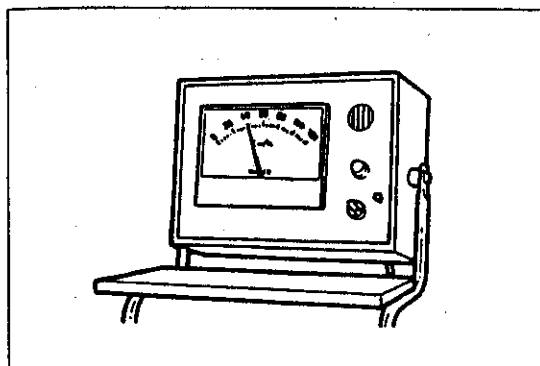
計器

作用

〈速度計（スピードメータ）〉

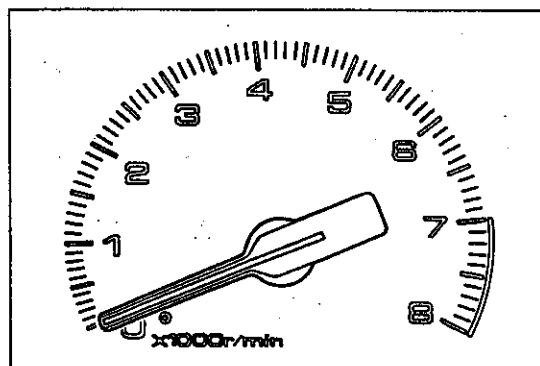
1. 走行するか、またはスピードメータ・テストにより、速度計の指針が速度に応じて滑らかに追従することを目視により点検する。
2. 著しい振れがないことを目視により点検する。

標準値 ±3 km/h 以下



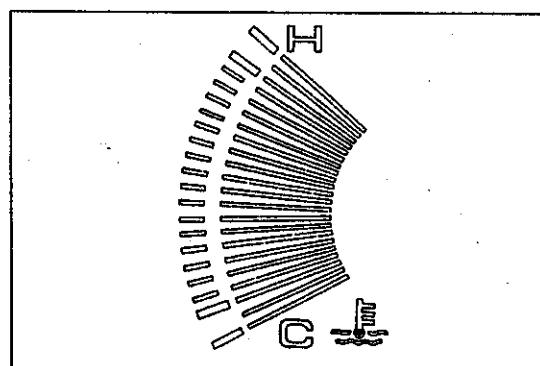
3. 速度計が40km/hの指示に安定したとき、テストとの誤差を点検する。

標準値 36~46km/h



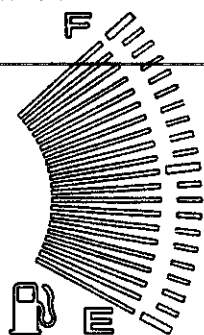
〈タコメータ〉

1. エンジンの回転に応じて回転計の指針が滑らかに追従することを目視により点検する。



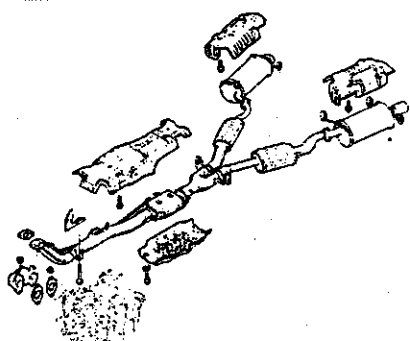
〈水温計（ウォータ・テンプレチャ・ゲージ）〉

1. 冷間時は指針が起点にあり、エンジンの暖機状態に応じて指針が水温を示すことを目視により点検する。



### 〈フューエル・ゲージ〉

1. 指針が燃料の量を示すことを目視により点検する。



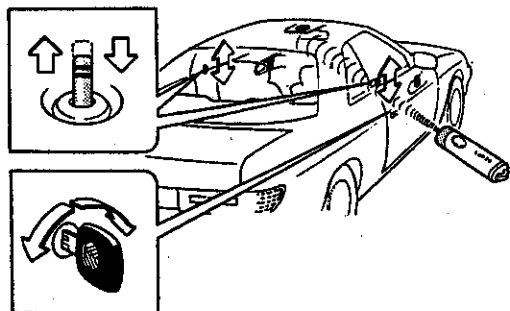
### エグゾースト・パイプ及びマフラ

#### 取付けの緩み及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、エグゾースト・パイプとマフラの取付け部の接続部に緩みなどが無いことを手で揺するなどして点検する。
2. 損傷、排気ガスの漏れ、他の部分との接触のおそれがないことを点検する。

#### マフラの機能

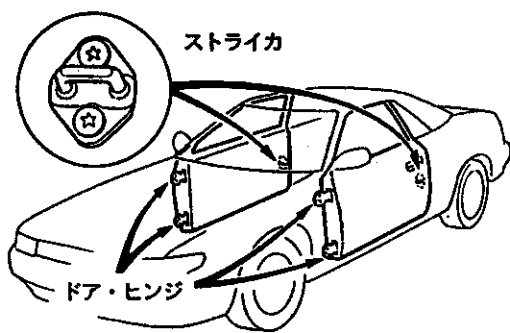
1. エンジン回転数を変化させて排気音に異常がないことを点検する。



### 車枠及び車体

#### ドア・ロックの機能

1. ドアが、ドア・キー、ロック・スイッチ、インナ・ロック・ノブおよびトランスミットにより確実にロックすることを点検する。
2. ドアが軽く確実に閉じ、建て付けがよく、がたがないことを目視により点検する。



#### ストライカ

#### ドア・ヒンジ

#### 緩み及び損傷

1. 車両をリフト・アップし、フレーム、クロス・メンバなどのリベット・ボルトに緩みがないことを点検する。
2. フレーム、クロス・メンバなどに損傷がないことを目視により点検する。
3. ドアなどの各ヒンジに緩みがないことを手で動かして点検する。
4. ドアなどに損傷がないことを目視により点検する。

### 座席

#### 座席ベルトの状態

1. ベルトに損傷がないことを目視により点検する。
2. バックル及びリトラクタの操作が良好であることを点検する。

#### その他

#### シャシ各部の給油脂状態

1. 車両をリフト・アップし、シャシ各部の給油状態が十分であることを目視により点検する。

